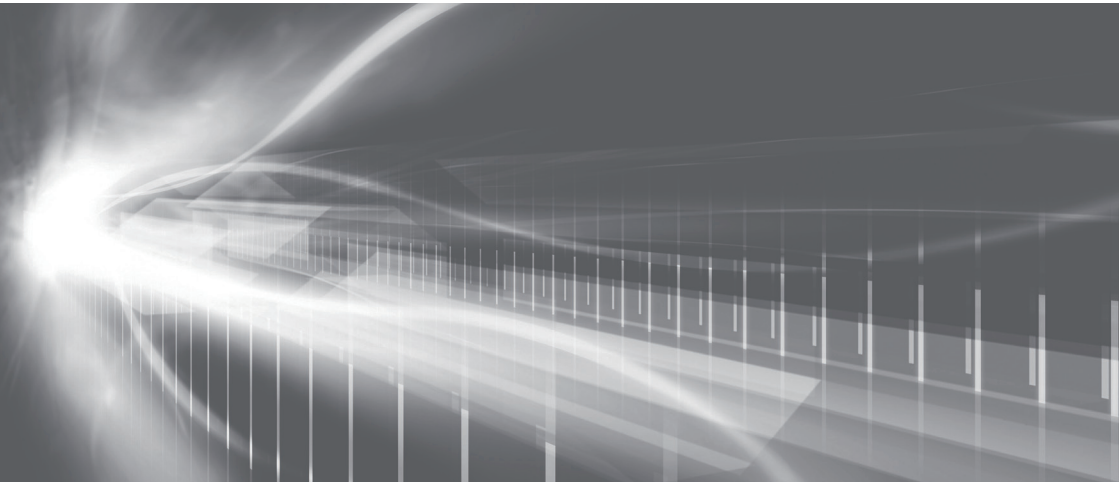
トヨタ ウェルキャブシリーズ



ウェルキャブ(フレンドマチック取付用専用車タイプⅡ／タイプⅢ／タイプⅣ)

取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

RACTIS

TOYOTA

TABLE OF CONTENTS
目次

1	**安全ドライブのために**	安全ドライブのために必ず守っていただきたいことが記載してあります。
2	**車内外への乗り降り**	車内外への乗り降り、車いすの格納に関する説明がしてあります。
3	**運転する前に／運転するときに**	シートの調整、ウェルキャリー、専用パワーステアリング、バックドアの開閉に関する説明がしてあります。
4	**お手入れのしかた**	ウェルキャブ装備のお手入れについての説明がしてあります。
5	**お困りのときは**	故障と思われる前に確認していただきたいことなどが記載してあります。
6	**点検・整備項目**	定期点検整備についての説明がしてあります。
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順で探すことができます。

本書はウェルキャブ（フレンドマチック取付用専用車タイプⅡ／タイプⅢ／タイプⅣ）独自の装備について記載しています。車両全体の取り扱い方法や注意事項などは、必ず別冊の標準車取扱書を参照してください。

TABLE OF CONTENTS 目次

1 安全ドライブのために

1-1. 安全ドライブのために

車内外への乗降・
車いすの格納について.....16
車両のバッテリーについて
：タイプⅢ、タイプⅣ.....20

2 車内外への乗り降り

2-1. 乗降操作の流れ

車内外に乗降する前に.....22
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅡ.....23
車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅢ.....26
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅣ.....28

2-2. リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ

専用リモコン.....31

2-3. ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ

ワイヤードリモコン.....36
ワイヤレスリモコン.....39

2-4. 車内外への乗降および車いすの格納

車内外に乗降するときは.....43
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅡ.....49
車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅢ.....63
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅣ.....72

3 運転する前に／運転するときに

3-1. 助手席前倒し機構＆操作ストラップ：タイプⅡ
助手席前倒し機構＆操作ストラップ 92

3-2. リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ
リモコン式専用運転席パワーシートの調整 93
ヘッドレスト 98

3-3. ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ
ウェルキャリー 99
車いす吊上げバンド 106

3-4. 運転にあたって
専用パワーステアリング 107

3-5. バックドアの開閉
バックドアストラップ 108

4 お手入れのしかた

4-1. ウェルキャリーの手入れ：タイプⅢ、タイプⅣ
ウェルキャリーの清掃 112

5 お困りのときは

5-1. パンクしたときは
タイヤパンク応急修理キットの取り出し：タイプⅡ、タイプⅣ 116

5-2. 故障かな？とお考えになる前に
ヒューズの交換 117
リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ 120
ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ 122
ウェルキャリーが振出した状態で格納できないときは：タイプⅢ、タイプⅣ 124
シフトロックが解除できないときは：タイプⅢ、タイプⅣ 131
ワイヤレスリモコン：タイプⅢ、タイプⅣ 132

6 点検・整備項目

6-1. 点検・整備項目：タイプⅢ、タイプⅣ
定期点検整備 136

さくいん

五十音順さくいん 140

タイプ別主要装備一覧表

タイプにより主要装備が異なります。次の一覧表を確認してください。

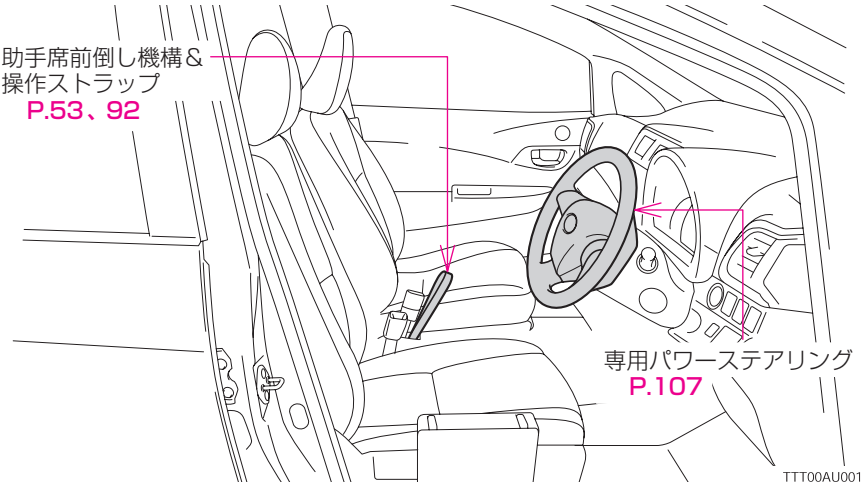
●：装備

主要装備	タイプⅡ	タイプⅢ	タイプⅣ
専用パワーステアリング	●	●	●
バックドアストラップ	●	●	●
助手席前倒し機構＆操作ストラップ	●	－	－
リモコン式専用運転席パワーシート	●	－	●
ウェルキャリー	－	●	●

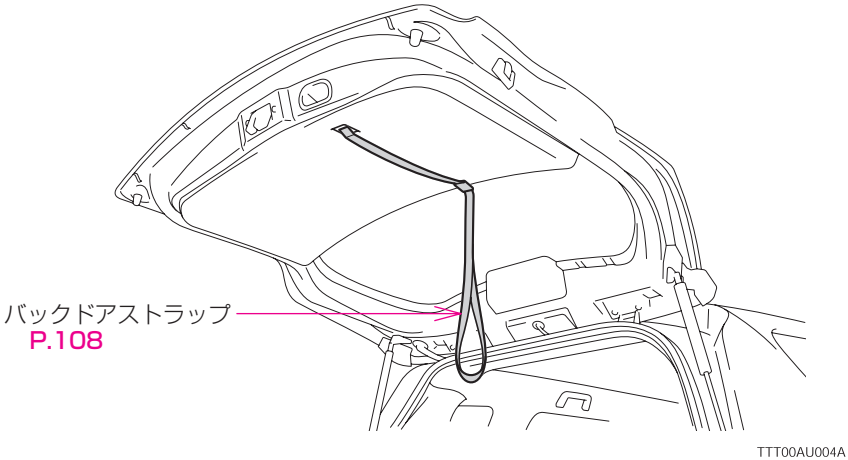
ウェルキャブ装備

▶ 専用パワーステアリング：タイプⅡ、タイプⅢ、タイプⅣ

▶ 助手席前倒し機構＆操作ストラップ：タイプⅡ



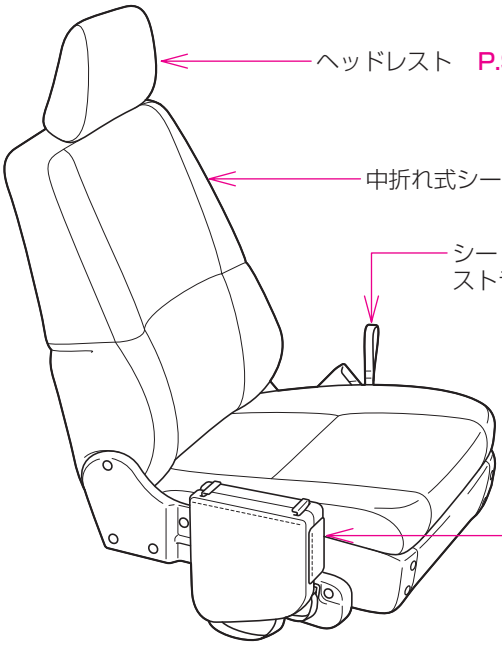
▶ バックドアストラップ：タイプⅡ、タイプⅢ、タイプⅣ



TTT00AU004A

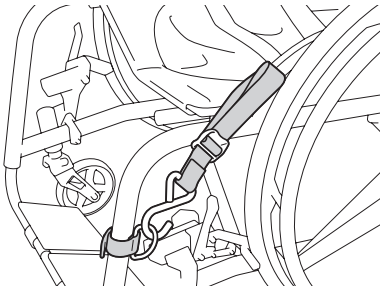
ウェルキャブ装備

▶ リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ



専用リモコン
P.31～35、50、73、93

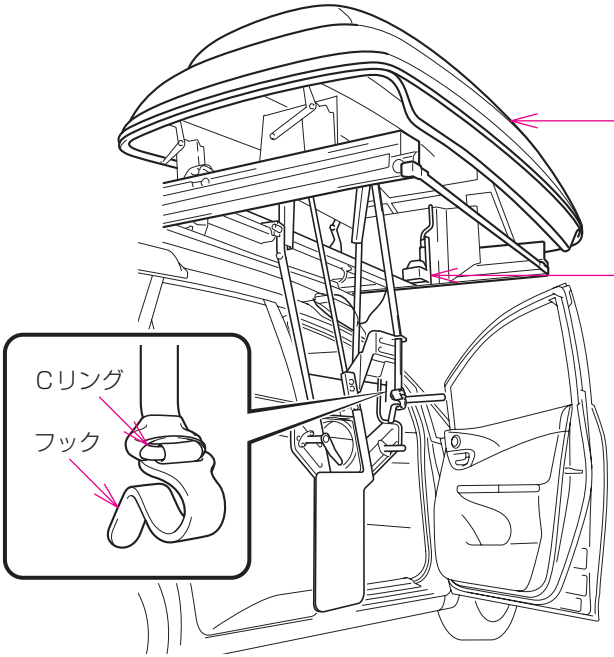
車いす固定用ストラップ
P.49、52～54、72、75、76



TTT00AU002B

●タイプⅢの運転席シートは標準車のシートが装備されます。

▶ ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ



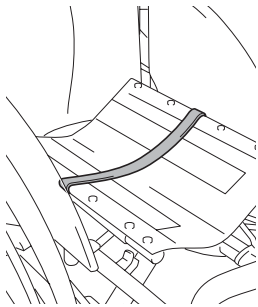
ウェルキャリー
P.64、77、
99～105

夜間照明灯 P.99

ワイヤレスリモコン
P.39～42

ワイヤードリモコン
P.36～38、64、77

車いす吊上げバンド
P.106



TTT00AU003A

一般的な使用上の注意

車いすから運転席シートへの移乗について

車いすから運転席シートへ移乗するためには、安全に操作でき、運転席ドアが全開できるスペースが必要です。

●運転席ドア付近に他の車を駐車されると、車両に乗降できなくなります。

リモコン式専用運転席パワーシートについて：タイプⅡ、タイプⅣ

●“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モード、かつパーキングブレーキが解除されている場合、リモコン式専用運転席パワーシートの操作はできません。（→ P.12）

●リモコン式専用運転席パワーシートは標準車のシートとは異なります。リクライニング角度（フルリクライニングはできません）、シートバック角度、シート前後スライド量は標準車とは異なります。また、アームレストも装着されません。

・ メーカーオプションの SRS サイドエアバッグを装着された場合、リモコン式専用運転席パワーシートには装着されません。（助手席シートには装着されます）

運転席側のフロントドアポケットについて：タイプⅡ、タイプⅣ

運転席側のフロントドアポケットは専用リモコンの収納位置になるため、使用できません。

ウェルキャリーについて：タイプⅢ、タイプⅣ

●ルーフ上のウェルキャリー内部に手が届かない方は、故障時の緊急格納作業ができません。
故障時はトヨタ販売店にご連絡ください。

●ウェルキャリーを作動させる前に、必ず“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード以外にし、パーキングブレーキをかけてください。そうしないとウェルキャリーは作動できません。（→ P.13）

●ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください。ウェルキャリーが完全格納されていないときは、シフトロックが働き、シフトレバーを P の位置から動かせません。

・ ウェルキャリーを完全格納状態にしてもシフトロックが解除されず、シフトレバーが P の位置から動かせないときは、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』を参照し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●駐車時は、車両右側および上方に十分なスペースが必要です。（→ P.103）

●車両のバッテリーがあがってしまうとウェルキャリーの操作ができなくなります。

●ウェルキャリーとルーフのすき間は狭いため、洗車時に清掃はできません。（→ P.113）

●自動洗車機は使用しないでください。ウェルキャリーが破損するおそれがあります。

●ウェルキャリーは車いす 1 台分の車いす専用格納装置です。車いす以外のものを格納しないでください。

●トヨタ販売店で、お客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と、車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。また、格納する車いすがかわった場合も、トヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。（→ P.68、86、106）

不測の事態に備えて

●常に携帯電話を所持されることをおすすめします。

●お車をご購入の販売店の所在地および電話番号を次に控えておくと便利です。

販　売　店	
所　在　地	
電 話 番 号	（　　）　　－

リモコン式専用運転席パワーシートが動かなくなったときは：タイプⅡ、タイプⅣ

作動条件の確認

次の作動条件をすべて満たしていることを確認してください。

○：作動　×：非作動

ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ ｽﾄｯﾌﾟ ｽｲｯﾁ	パーキング ブレーキ	前後位置 調整	リクライニング 調整	クッション 前端の高さ調整	下降 作動	上昇 作動
イグニッション ONモード	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	×	×	×	×	×
イグニッション ONモード以外	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	○	○	○	○	○

作動条件をすべて満たしているにもかかわらずリモコン式専用運転席パワーシートが動かなくなった場合

正しい乗車姿勢で運転できる場合：エンジンを始動し、そのまま運転してすみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

正しい乗車姿勢で運転できない場合：そのまま運転せず、すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。やむを得ず運転する必要がある場合は、最小限の車両移動としてください。

不測の事態に備えて

P.11 の『不測の事態に備えて』を確認してください。

ウェルキャリーが動かなくなったときは：タイプⅢ、タイプⅣ

作動条件の確認

次の作動条件をすべて満たしていることを確認してください。

○：作動　×：非作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチ	パーキング ブレーキ	振出作動	格納作動
イグニッション ONモード	かかっている	×	×
	解除	×	×
イグニッション ONモード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

作動条件をすべて満たしているにもかかわらずウェルキャリーが動かなくなった場合

ウェルキャリーが完全格納されている場合：エンジンを始動し、そのまま運転してすみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ウェルキャリーが完全格納されていない場合：シフトロックが働き、シフトレバーをPの位置から動かすことができません。P.125 以降の要領でウェルキャリーを完全格納状態にし、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

●ウェルキャリーを完全格納状態にしてもシフトロックが解除されず、シフトレバーがPの位置から動かせないときは、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』を参照し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P.131）

不測の事態に備えて

P.11 の『不測の事態に備えて』を確認してください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

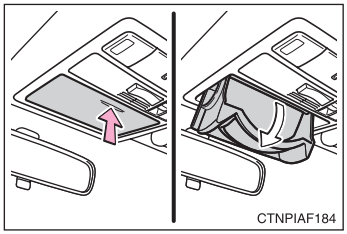
知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。



操作を示す矢印

➪ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

安全ドライブのために 1

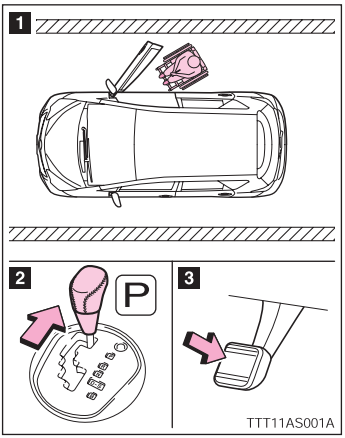
1-1. 安全ドライブのために
車内外への乗降・
車いすの格納について.....16
車両のバッテリーについて
：タイプⅢ、タイプⅣ.....20

車内外への乗降・車いすの格納について

車内外への乗降および車いすの格納について、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

⚠ 警告

■運転席シートに乗降するときは



必ずエンジンを停止してシフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキをかけ、平坦で段差や突起物のない場所で行い、凍結路などすべりやすい路面での乗降をしないでください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

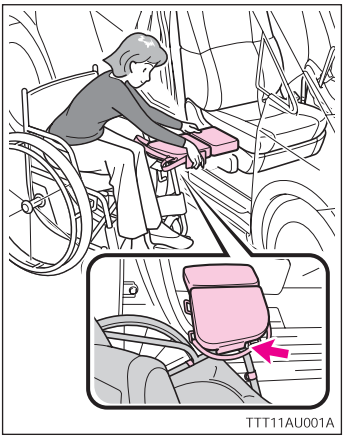
1 平坦で運転席ドアを全開できるスペースがある場所で乗降する

2 シフトレバーをPの位置にする

3 パーキングブレーキを確実にかける

⚠ 警告

■移乗ボードをセットしたときは：タイプⅡ、タイプⅣ


TTT11AU001A

移乗ボードを軽くゆさぶり、確実に移乗ボードが車いすサイド部左側フレームにセットされていることを確認してください。
移乗ボードが確実にセットされていないと、移乗中に移乗ボードがはずれ、移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
移乗ボードをセットしたときは次のことを確認してください。

- 車いすのブレーキが両輪ともかけられていること
- 移乗ボード裏面のツメが車いすに確実にかかっていること
- 車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されている（車いす固定用ストラップのフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっている）こと
（→ P.51、52、74、75）

■車いすを車内に格納したときは：タイプⅡ

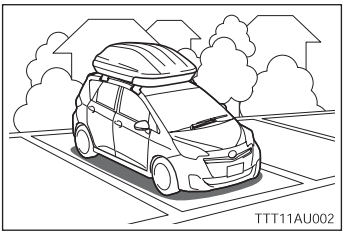
TTT11AS002

車いすが確実に格納され、運転操作のさまたげにならないことを確認してください。
確実に格納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
車いす格納後、助手席シートを次のように調整してください。

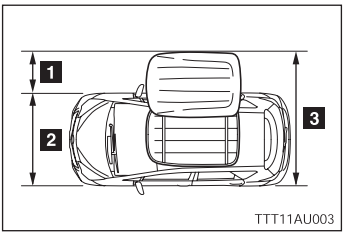
- 背もたれを必ず起こした状態にしてください。
- 車いすが動かないように前後位置を調整してください。

⚠ 警告

■ウェルキャリーの操作について：タイプⅢ、タイプⅣ



●平坦で段差や突起物のない場所で乗降およびウェルキャリーの操作を行ってください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。



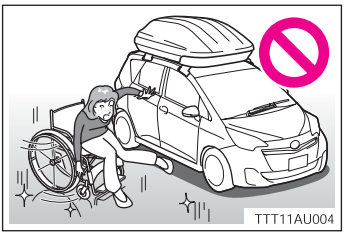
●駐車時は、車両右側に十分なスペースがあることを確認してください。
車両に乗降できなくなったり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

1 790mm

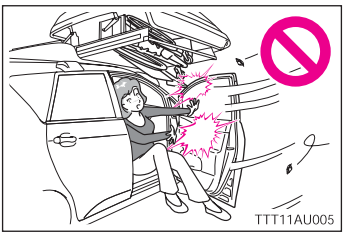
2 1695mm

3 2485mm

※：各寸法値は設計値を示します。
実測値は若干異なることがあります。



●凍結した路面などすべりやすい路面での乗降をしないでください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

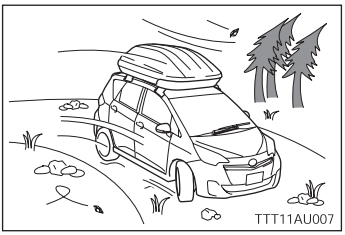


●強風時は作動させないでください。
ドアが不意に閉まり重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために：タイプⅢ、タイプⅣ

●積雪時は、雪を取り除いてから作動させてください。ウェルキャリーが破損するおそれがあります。
また、積雪量が多い場合は、保護機能が働き作動しない場合があります。
（→ P.100）



●強風（横風）時や急カーブ、不整地などの走行時は、スピードを抑えて安全運転をしてください。

●強風時は作動させないでください。
ウェルキャリーやドアを破損するおそれがあります。

●自動洗車機は、使用しないでください。
ウェルキャリーが破損するおそれがあります。

車両のバッテリーについて：タイプⅢ、タイプⅣ

車両のバッテリーについて、必ず守っていただきたいことをまとめてあります。

知識

■車両のバッテリーの取り扱いについて

ウェルキャリー操作中に車両のバッテリーをはずさないでください。ウェルキャリーが作動しなくなります。

- ウェルキャリー操作中に車両のバッテリーの交換またははずしたときは、車両のバッテリーの接続状態を確認し、P.125、126 の方法でリセット操作をしてください。

車内外への乗り降り 2

2-1. 乗降操作の流れ
車内外に乗降する前に.....22
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅡ 23
車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅢ 26
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅣ 28

2-2. リモコン式専用運転席パワー
シート：タイプⅡ、タイプⅣ
専用リモコン.....31

2-3. ウェルキャリー
：タイプⅢ、タイプⅣ
ワイヤードリモコン 36
ワイヤレスリモコン 39

2-4. 車内外への乗降および
車いすの格納
車内外に乗降するときは.....43
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅡ 49
車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅢ 63
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への
乗降および車いすの格納
：タイプⅣ 72

車内外に乗降する前に

車いすから運転席シートに移乗および車いすを格納する前に、必ず次の状態を確認してください。

- シフトレバーがＰの位置になっていること
- パーキングブレーキがかかっていること
- エンジンが停止していること
- 平坦で段差や突起物のない場所であること
- 助手席シートおよびリヤシートに乗員がいないこと（タイプⅡ）
- 車いすを格納するスペースにものが置かれていないこと（タイプⅡ）
- リヤシートが折りたたまれていないこと（タイプⅡ）
- 運転席ドアが全開および運転席側リヤドアが全閉であること（タイプⅢ、タイプⅣ）
- 車両右側および上方に十分なスペースがあること（タイプⅢ、タイプⅣ）（→P.103）

リモコン式専用運転席パワーシートでの車内外への乗降および車いすの格納：タイプⅡ

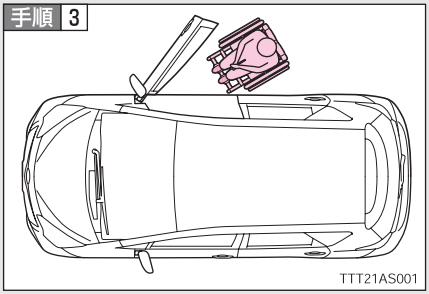
リモコン式専用運転席パワーシートを使用して車内外に乗り降りするときは、次の手順で行います。

■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1 車いすに車いす固定用ストラップを取り付ける（→ P.49）

手順 2 運転席ドアを全開にする

手順 3



車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

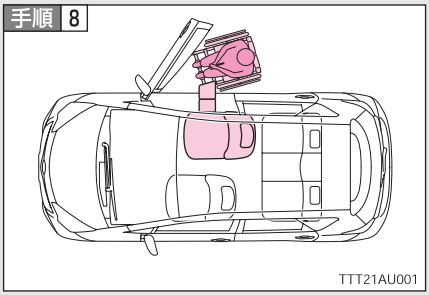
手順 4 専用リモコンを取り出す（→ P.50）

手順 5 リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P.50）

手順 6 リモコン式専用運転席パワーシートをいちばん下まで下降させる（→ P.50）

手順 7 移乗ボードを伸ばす（→ P.51）

手順 8



TTT21AU001

車いすのブレーキを両輪とも解除し、移乗ボードにセットする（→ P.51、52）

1 車いすサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかけます。

2 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかけ、移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにします。

手順 9 車いすのブレーキを両輪ともかけ、車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する（→ P.52）

手順 10 助手席シートの背もたれを前側に倒し、いちばん前まで移動させる（→ P.53）

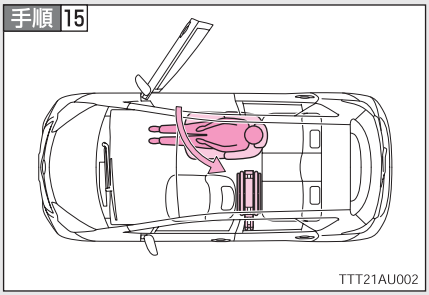
手順 11 車いす固定用ストラップをゆるめ、移乗ボードからはずす（→ P.53）

手順 12 移乗ボードのツメを車いすサイド部左側フレームからはずし、移乗ボードを車いすからはずす

手順 13 リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒す（→ P.54）

手順 14 車いすを折りたたみ、車いすのブレーキを両輪とも解除する

手順 15



TTT21AU002

車いすを車内に格納する
（→ P.55）

1 移乗ボードに車いすの前輪を乗せ、車いすの後輪を移乗ボードに乗せながら車内に引き込みます。

2 車いすは助手席シートとリヤシートのあいだに置きます。

手順 16 リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれを前側に起こす（→ P.55）

手順 17 移乗ボードを格納し、運転席ドアを閉める（→ P.56）

手順 18 助手席シートの背もたれをうしろ側に起こし、前後位置を調整する

車いすを軽くゆさぶり、車いすが動かないことを確認します。

手順 19 リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する（→ P.93 ～ 98、標準車取扱書の『正しい運転姿勢』）

手順 20 専用リモコンを収納場所にもどす（→ P.32）

手順 21 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する

シフトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.23 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

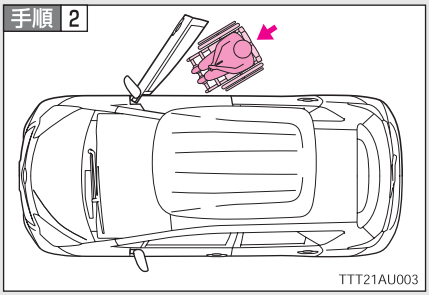
車内外への乗降および車いすの格納：タイプⅢ

車内外に乗り降りおよび車いすを格納するときは、次の手順で行います。

■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1 運転席ドアを全開にする

手順 2



車いすを運転席シートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

運転席シートを操作できる位置まで車いすを近付けます。

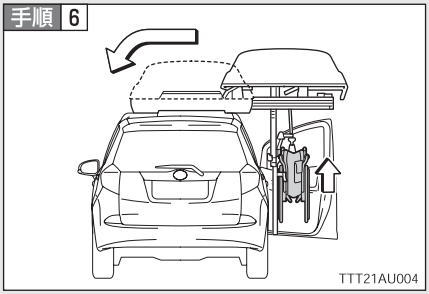
手順 3 運転席シートをいちばんうしろまで移動させる（→ P.63）

手順 4 車いすから運転席シートに移乗する

手順 5 ウェルキャリーを下降させる（→ P.64）

ウェルキャリーが車いすにあたらないように車いすを移動させます。

手順 6



車いすをウェルキャリーに格納する（→ P.64、65）

手順 7 運転席ドアを閉める

手順 8 運転席シートを運転に適した位置に調整する

（→標準車取扱書の『フロントシート』、『正しい運転姿勢』）

手順 9 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する
シフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.26 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

リモコン式専用運転席パワーシートでの車内外への乗降および車いすの格納：タイプⅣ

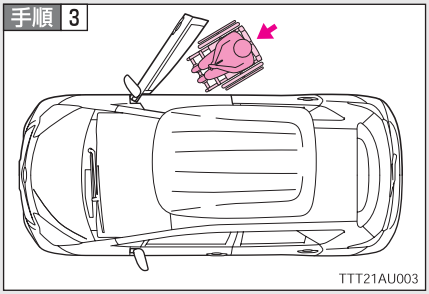
リモコン式専用運転席パワーシートを使用して車内外に乗り降りおよび車いすを格納するときは、次の手順で行います。

■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1 車いすに車いす固定用ストラップを取り付ける（→ P.72）

手順 2 運転席ドアを全開にする

手順 3



車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

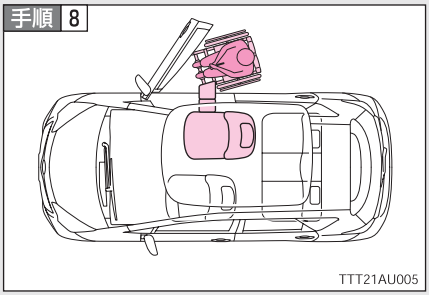
手順 4 リモコン式専用運転席パワーシートの専用リモコンを取り出す（→ P.73）

手順 5 リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる（→ P.73）

手順 6 リモコン式専用運転席パワーシートをいちばん下まで下降させる（→ P.73）

手順 7 移乗ボードを伸ばす（→ P.74）

手順 8



TTT21AU005

車いすのブレーキを両輪とも解除し、移乗ボードにセットする（→ P.74、75）

1 車いすサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかけます。

2 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかけ、移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにします。

手順 9 車いすのブレーキを両輪ともかけ、車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する（→ P.75）

手順 10 車いす固定用ストラップをゆるめ、移乗ボードからはずす（→ P.76）

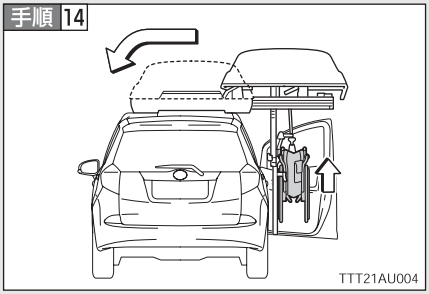
手順 11 移乗ボードのツメを車いすサイド部左側フレームからはずし、移乗ボードを車いすからはずす

手順 12 移乗ボードを格納する（→ P.77）

手順 13 ウェルキャリーを下降させる（→ P.77）

ウェルキャリーが車いすにあたらないように車いすを移動させます。

手順 14



TTT21AU004

車いすをウェルキャリーに格納する（→ P.78）

手順 15 運転席ドアを閉める

手順 16 リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する（→ P.93 ～ 98、標準車取扱書の『正しい運転姿勢』）

手順 17 リモコン式専用運転席パワーシートの専用リモコンを収納場所にもどす（→ P.32）

手順 18 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する
シフトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.28 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

専用リモコン

■専用リモコンについて

1 クッション前端の高さ調整
（乗降時は使用しません）

2 リクライニング調整

3 前後位置調整

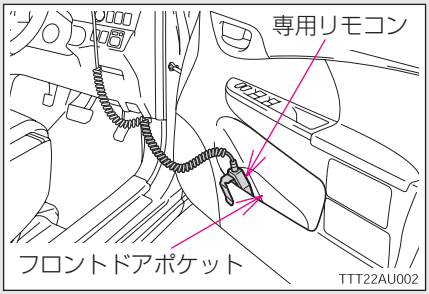
4 シート全体の昇降

■専用リモコンを使用するときは

専用リモコンを脚の上に置き、もう片方の手でスイッチを押す

片方の手の平を専用リモコン後部のフックに入れると、専用リモコンを固定しやすくなります。

■専用リモコン使用後は

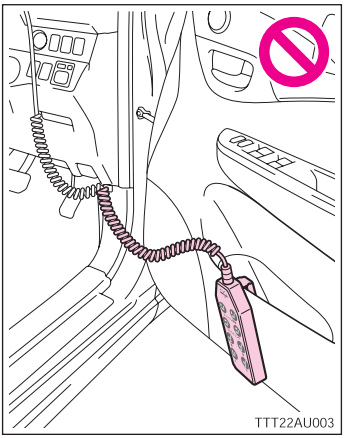


専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する

専用リモコンがフロントドアポケットの外側に出た状態にしないでください。

⚠ 警告

■専用リモコンを収納するときは



●運転席ドアのフロントドアポケットに正しい方向で収納してください。

・ 専用リモコンがフロントドアポケットの外に出た状態にすると、リモコン式専用運転席パワーシートや車いすなどにあたり、思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。

・ 取り出し時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。

●運転席ドアのフロントドアポケットには、専用リモコン以外のものを入れないでください。
専用リモコンが破損したり、リモコン式専用運転席パワーシートの誤作動の原因になり、リモコン式専用運転席パワーシートから転落したりするなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⚠注意

■故障・破損を防ぐために

- リモコン式専用運転席パワーシートは昇降能力 100kg をこえないようにしてください。
  リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
  （移乗ボードの許容荷重も 100kg です）
- 専用リモコンを取り出すときは、コードを持って引っ張り出さないでください。
  コードが断線するおそれがあります。
- 専用リモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
  - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
  - ・ 分解しない
  - ・ 落としたり、車いすで踏むなどの強い衝撃を与えない
  - ・ 水たまりなど、水中に落下させない
    （防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）
- 専用リモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
  故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- 専用リモコンのスイッチの切りかえ操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
  瞬時に切りかえを行うと、リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
- リモコン式専用運転席パワーシートの作動が完了したら、専用リモコンのスイッチから指を離してください。
  スイッチを押し続けると、リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。
- 専用リモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
  表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

⚠ 注意

■専用リモコンを収納するときは

- 専用リモコンのスイッチを押さないよう注意してください。
- 専用リモコンは必ず運転席ドアのフロントドアポケットに収納してください。
  フロントドアポケット以外の場所に収納すると、運転席ドアを開けたときに専用リモコンが落下し、破損するおそれがあります。

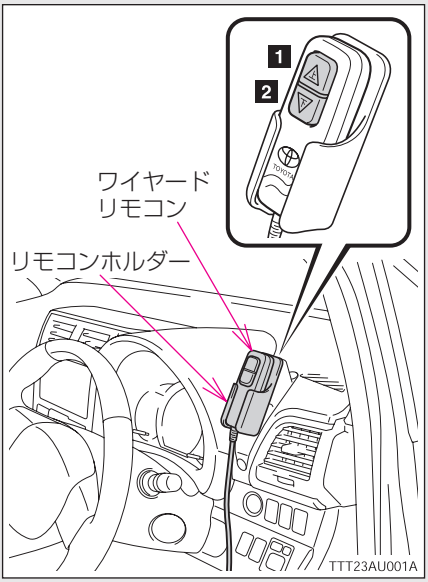
■運転席ドアを閉めるときは

専用リモコンやコードを運転席ドアに挟み込まないよう注意してください。
専用リモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。

ワイヤードリモコン

ワイヤードリモコンでウェルキャリーの振出および格納操作ができます。

■各部の名称



1 格納スイッチ

2 振出スイッチ

操作しないときは、リモコンホルダーにもどします。

知識

■ウェルキャリーの作動条件について

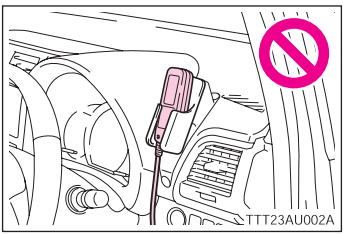
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モード以外、かつパーキングブレーキがかかっている場合のみ作動します。それ以外は作動しません。（→ P.100）

■ウェルキャリーの作動について

- ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤードリモコンのスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。
- ウェルキャリーが作動中にワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウェルキャリーはその位置で停止します。

⚠警告

■ワイヤードリモコンを収納するときは

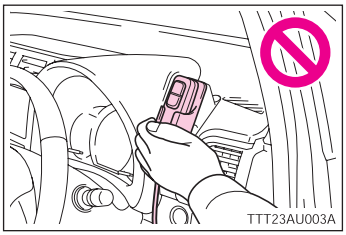


ワイヤードリモコンを使用しないときは、リモコンホルダーに正しい方向で収納してください。
リモコンホルダー以外の場所に収納したり正しい方向で収納しないと、ウェルキャリーが思わぬ動きをして危険です。

⚠ 注意

■故障を防ぐために

- ワイヤードリモコンを落としたり、車いすで踏まないように注意してください。
  ワイヤードリモコンが破損するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンは水にぬらさないでください。
  飲料水などをこぼしたり、水たまりなど水中に落下すると故障するおそれがあります。
- ドアを閉めるときは、ワイヤードリモコンやコードをドアに挟み込まないように注意してください。
  ワイヤードリモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンはコードを持って引っ張らないでください。
  コードが断線するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
  故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。

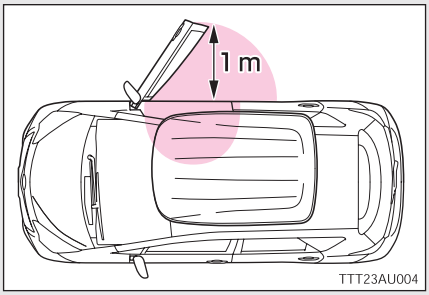


- 乗降時などに、リモコンホルダーを持たないでください。
  リモコンホルダーが破損するおそれがあります。
- ワイヤードリモコンを使用しないときは、リモコンホルダーに正しい方向で収納してください。
  使用時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。

ワイヤレスリモコン

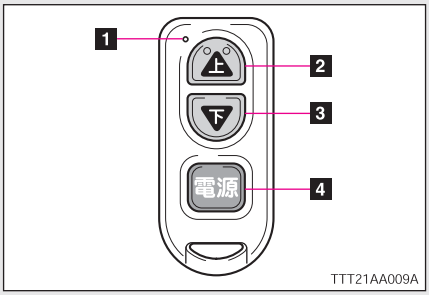
ワイヤレスリモコンでウェルキャリーの振出および格納操作ができます。

■作動可能範囲



作動可能範囲
（ウェルキャリーから約 1m）

■各部の名称



1 動作表示 LED
2 格納スイッチ
3 振出スイッチ
4 電源スイッチ

■使い方

ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押し、6 秒以内（動作表示 LED 赤色点灯時）に振出スイッチまたは格納スイッチを押し続ける（動作表示 LED 緑色点滅）

知識

■作動条件について

●ワイヤレスリモコンは、周囲の状況により作動可能範囲がかわることがあります。

●周囲の電波状況により、ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押してもウェルキャリーが一時的に停止する場合や、作動しなくなることがあります。そのときは位置をかえて操作してください。

・ その際、ワイヤレスリモコンのスイッチを押し直してください。押し続けたまま位置をかえてもウェルキャリーは作動しません。

■ワイヤレスリモコンについて

●ワイヤレスリモコンは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

・ 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・ 必ず日本国内でご使用ください。

●ワイヤレスリモコンの送信機もしくは受信機を交換したときは、受信機のID コードを登録する必要があります。登録はトヨタ販売店にお申し付けください。

●ワイヤレスリモコンの電源スイッチを押してから 6 秒以内に振出スイッチまたは格納スイッチを押さないと、自動的に電源が切れます（動作表示LED 消灯）。ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと、電源はスイッチから指を離した時点より 6 秒延長します。

●ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤレスリモコンのスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。

●ウェルキャリーが作動中にワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウェルキャリーはその位置で停止します。

●複数のスイッチを同時に押すと、ウェルキャリーは作動しません。

知識

■電池について

●電池寿命は約 1 年間です。ただし、電池寿命は実際の使用状況によってかわります。

●ワイヤレスリモコンを操作してもウェルキャリーが作動しない場合や、著しく作動可能距離が短くなった場合、または動作表示 LED が点灯しなくなったり、点滅しなくなった場合は、電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。電池はお客様自身で交換できます。（→ P.133）

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスリモコンを持ち込む場合は、航空機内でワイヤレスリモコンのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠警告

■電波がおよぼす影響について

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。

電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

⚠注意

■故障を防ぐために

●ワイヤレスリモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。

・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない

・ 分解しない

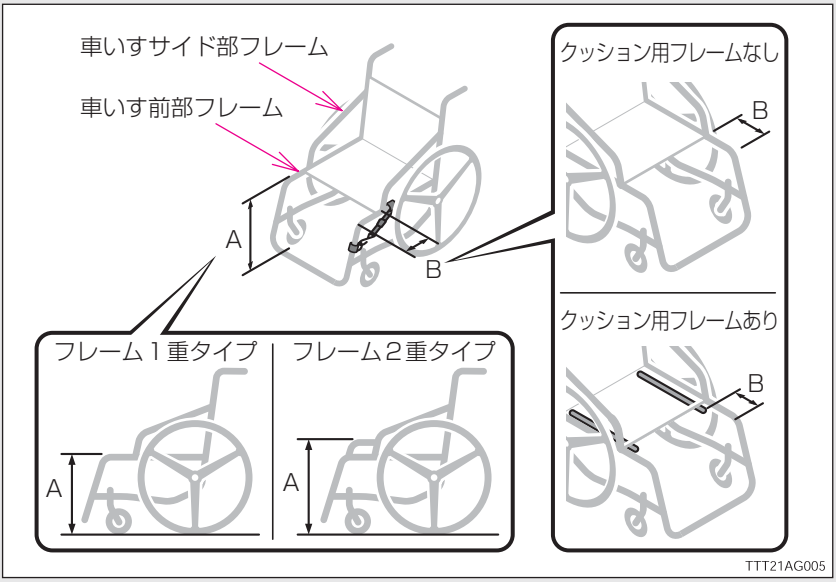
・ 落としたり、強い衝撃を与えない

・ 水たまりなど、水中に落下させない
（防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）

●ワイヤレスリモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは、水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

■車いすの目安

▶移乗ボードを使用して移乗するとき：タイプⅡ、タイプⅣ



部位	寸法
車いす前部フレーム	直径 12～35mm
車いすサイド部フレーム	直径 12～35mm
A	400mm以上
B	70mm以上

●各寸法は車いすに移乗ボードのツメを確実にかけるために必要になります。

▶車いすを車内に格納するとき：タイプⅡ

車いすは車内に搭載可能な軽量折りたたみ式の車輪径 22 インチ以下のものをおすすめします。

▶車いすをウェルキャリーに格納するとき：タイプⅢ、タイプⅣ

P.101 の『搭載可能な車いすの目安』をご確認ください。

⚠ 警告

■車内外に移乗するときは

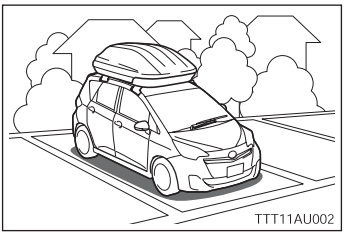
必ずシフトレバーをＰの位置にし、パーキングブレーキをかけ、エンジンを停止して平坦で段差や突起物のない場所で行い、凍結路などすべりやすい路面での乗降をしないでください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

■車いすを車内に格納する前に：タイプⅡ

●必ず助手席シートおよびリヤシートに乗員がいないことを確認してください。
助手席シートおよびリヤシートに乗員がいる状態で車いすを格納すると、車いすが他の乗員にあたり、けがをするおそれがあります。

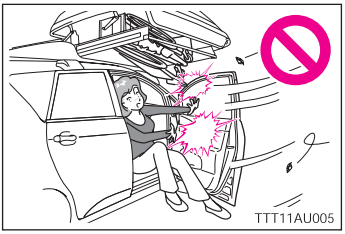
●車いすを格納する前に、必ず助手席側リヤシートが折りたたまれていないことを確認してください。
助手席側リヤシートが折りたたまれた状態で車いすを格納すると、車いすをシートで固定することができず、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車いすをウェルキャリーに格納する前に：タイプⅢ、タイプⅣ

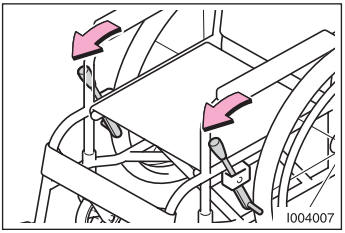

TTT11AU002

●平坦で段差や突起物のない場所で乗降およびウェルキャリーの操作を行ってください。
バランスをくずし転倒するおそれがあり危険です。

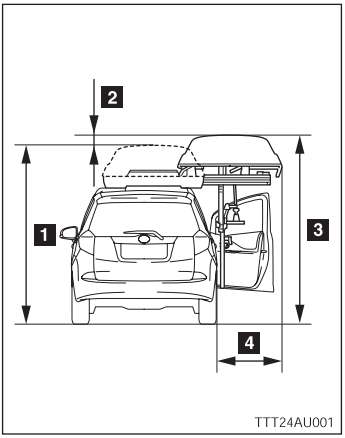
⚠ 警告



●強風時は作動させないでください。
運転席ドアが不意に閉まり、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



●格納する前に、必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。
車いすを降ろしたときに、車いすが動き出し、けがをするおそれがあります。



●走行状態の全高はFF車：2120mm、4WD車：2140mmになります（1）。高架下や立体駐車場など高さ制限のあるところを走行する場合は、高さに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●作動時にはウェルキャリーが120mm持ち上がり（2）、全高がFF車：2240mm、4WD車：2260mmになります（3）。作動させる前に、十分な高さがあることを確認してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

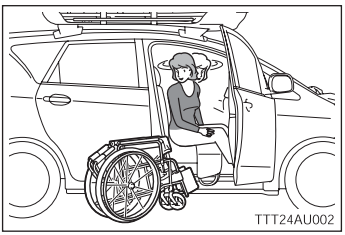
●ウェルキャリーは車両右側に790mmスライドします（4）。隣の車や建物などに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※：各寸法値は設計値を示します。
実測値は若干異なることがあります。

⚠ 警告

■ウェルキャリーを使用するときは：タイプⅢ、タイプⅣ

●ウェルキャリーを作動させる前に、歩行者や自転車、バイクなど後続車に注意してください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



●ウェルキャリーを作動させる前に周囲に人がいないことを確認してください。
ウェルキャリーやボデーのすき間に、頭や手などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、夜間は特に見えにくくなるため、注意して操作を行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●お子さまやウェルキャリーの操作を理解されていない方には、ウェルキャリーの操作をさせないでください。
ウェルキャリー可動部に挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために

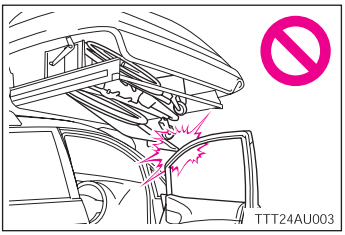
●リモコン式専用運転席パワーシートは昇降能力 100kg をこえないようにしてください。
リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
（タイプⅡ、タイプⅣ）

●移乗ボードは許容荷重内（許容荷重 100kg）で使用してください。
（タイプⅡ、タイプⅣ）

●車いすを格納する前に、必ず車いすを格納するスペースにものが置かれていないことを確認してください。
ものが置かれた状態で車いすを格納すると、車いすやものが動き、損傷するおそれがあります。また、車いすの格納が困難になります。（タイプⅡ）

⚠ 注意

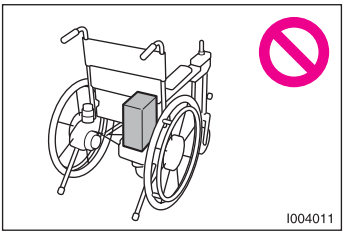
- 車いすを格納する前に、必ず運転席側リヤシートが折りたたまれていないことを確認してください。
  運転席側リヤシートが折りたたまれた状態で、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒すと、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれと運転席側リヤシートが干渉し、破損するおそれがあります。
  また、リモコン式専用運転席パワーシートの中折れ式シートバック機構の故障につながるおそれがあります。（タイプⅡ、タイプⅣ）
- 車いすを出し入れするときは、車内の部品などにあてないよう注意してください。
  車内の部品が破損するおそれがあります。（タイプⅡ）
- 強風時は作動させないでください。
  ウェルキャリーやドアを破損するおそれがあります。（タイプⅢ、タイプⅣ）
- 搭載可能な車いすの最大重量は 28kg です。
  28kg 以下の車いすをご使用ください。（タイプⅢ、タイプⅣ）
- 所定以外の車いすを格納しないでください。
  車いすを傷付けたり、ウェルキャリーを破損させるおそれがあります。
  （タイプⅢ、タイプⅣ）（→ P.101）
- 長期間使用しないときは、車いすを搭載したままにしないでください。
  車いすが変形するおそれがあります。（タイプⅢ、タイプⅣ）



- ウェルキャリーを作動させる前に、運転席ドアを全開にしてください。
  車いすやウェルキャリーでドアを傷付けるおそれがあります。
  （タイプⅢ、タイプⅣ）

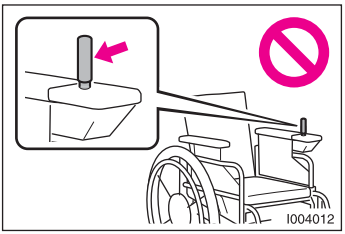
⚠ 注意

■電動車いすをご使用の方へ：タイプⅢ、タイプⅣ



●電動車いすを格納する場合は、必ず電動車いすのバッテリーを取りはずしてください。
バッテリーがはずれて落下したり、不意に車いすが動き出しウェルキャリーや車いすを破損させるおそれがあります。

●電動車いすのバッテリーは高温にならない場所に保管してください。
バッテリーの劣化が促進されます。（詳しくは電動車いすの取扱説明書を参照してください）

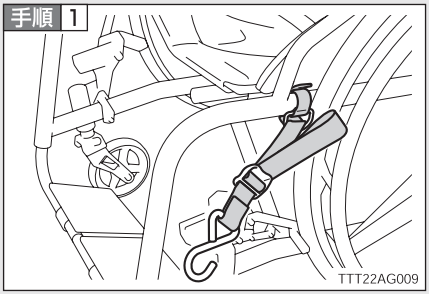


●電動車いすは、左側に自操用操作部（ジョイスティックなど）があるタイプを格納しないでください。
自操用操作部を破損させるおそれがあります。

●電動車いすは、自操用操作部が右側にあり、容易にはずれないタイプをご使用ください。
格納時にはずれ、自操用操作部を破損させるおそれがあります。

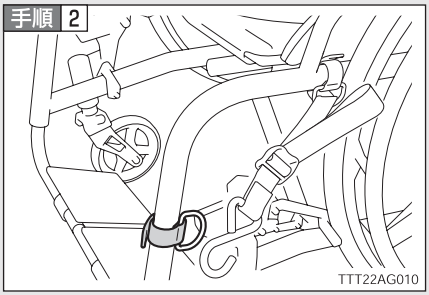
■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1



車いす固定用ストラップ（フック付き）を車いすのサイド部フレームの、ストラップが前方に動かない場所に通し、マジックテープで確実に固定する

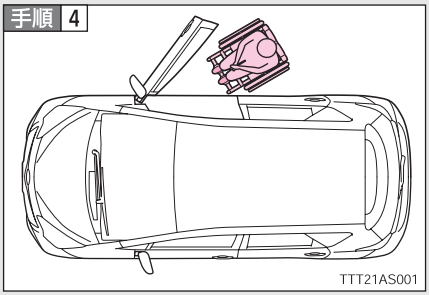
手順 2



車いす固定用ストラップ（リング付き）を車いすの前部フレームに通し、マジックテープで確実に固定する

手順 3 運転席ドアを全開にする

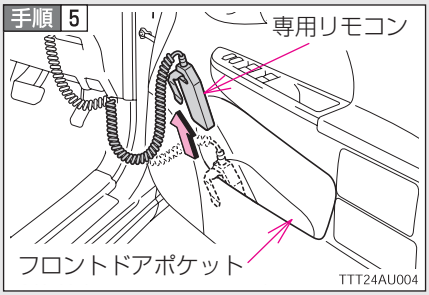
手順 4



車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

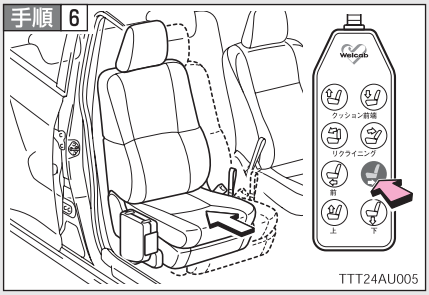
専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

手順 5



専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す

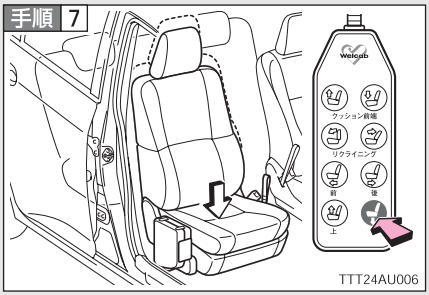
手順 6



専用リモコンの「後」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる

リモコン式専用運転席パワーシートの後方スライドが停止したら、スイッチから指を離します。

手順 7

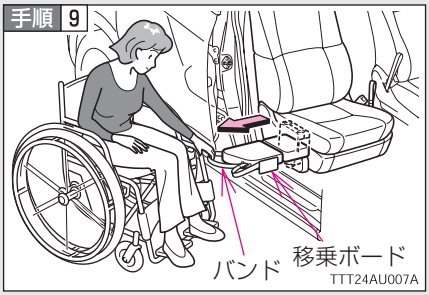


専用リモコンの「下」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばん下まで下降させる

リモコン式専用運転席パワーシートの下降が停止したら、スイッチから指を離します。

手順 8 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する（→ P.32）

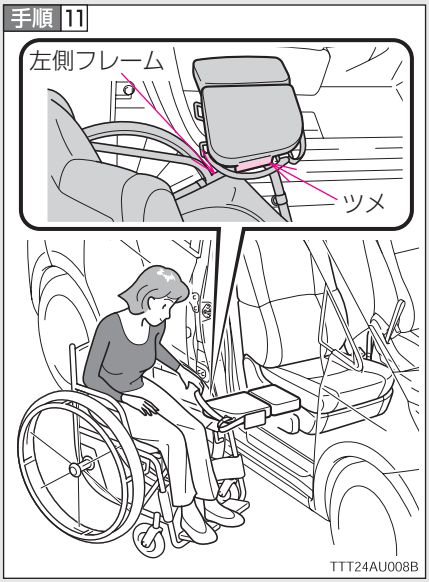
手順 9



バンドを引っ張り、移乗ボードを伸ばす

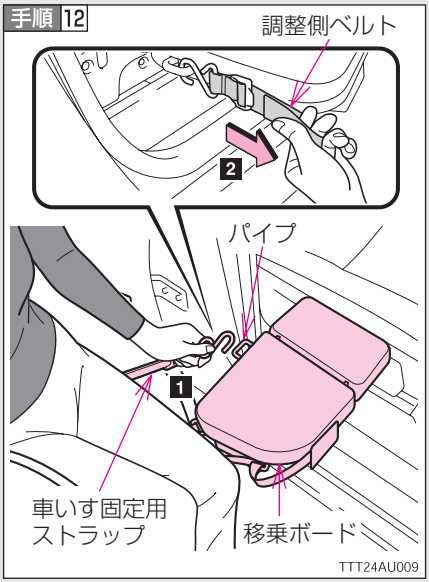
手順 10 車いすのブレーキを両輪とも解除する

手順 11



車いすのサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかける

手順 12

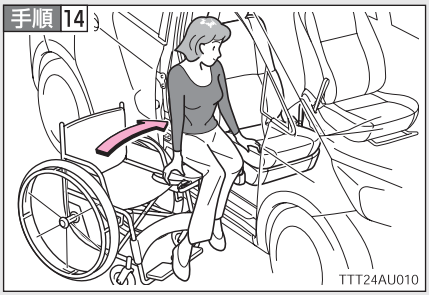


1 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかける

2 調整側ベルトを引っ張り、移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにする

手順 13 車いすのブレーキを両輪ともかける

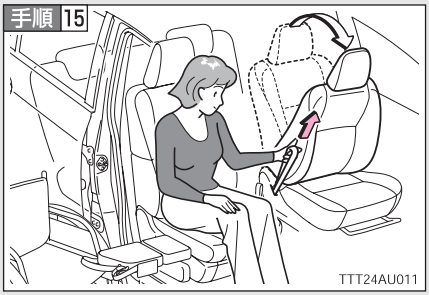
手順 14



移乗ボードの上を通って車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する

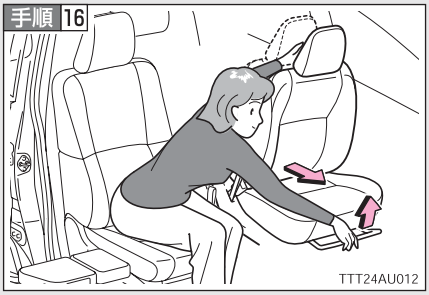
- 移乗ボードの中央付近に手をつき、すべらないように注意しながら移乗します。
- 専用リモコンのコードに引っかからないように注意しながら移乗します。

手順 15



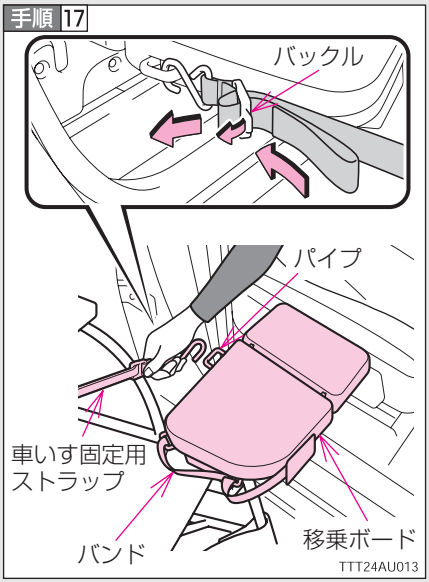
操作ストラップを引き、助手席シートの背もたれを前側に倒す

手順 16



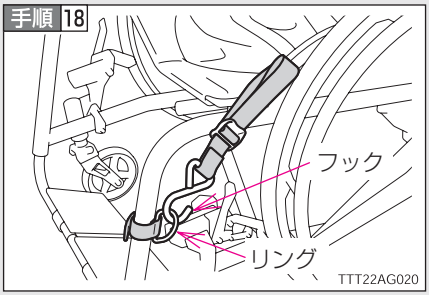
左手で助手席シートの背もたれを持ち、右手で助手席シートのスライドレバーを引き上げたまま、両手で助手席シートをいちばん前まで移動させる

手順 17



車いす固定用ストラップのバックルを引き上げ、車いす固定用ストラップをゆるめ、車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプからはずす

手順 18



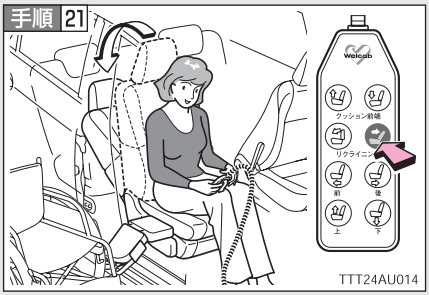
車いす固定用ストラップのフックを、車いすに取り付けたリングに引っかける

手順 19 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボード裏面のツメ（→ P.51）を車いすのサイド部左側フレームからはずす

移乗ボードはボデーにゆっくりと置いてください。

手順 20 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す（→ P.50）

手順 21

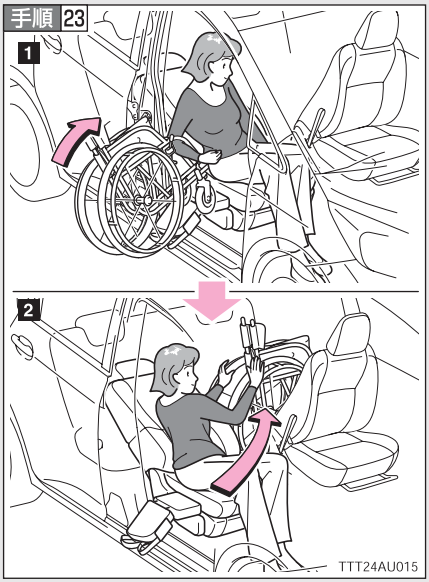


専用リモコンの「リクライニング」後方スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒す

リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれがリヤシートにあたらない位置まで、背もたれを倒します。

手順 22 車いすを折りたたみ、車いすのブレーキを両輪とも解除する

手順 23



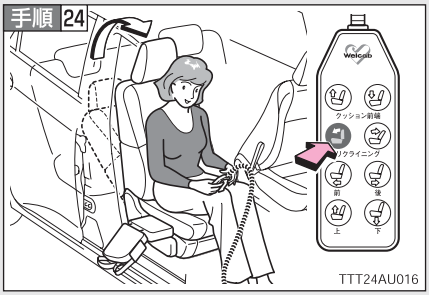
車いすを車内に格納する

1 移乗ボードに車いすの前輪を乗せ、車いすの後輪を移乗ボードに乗せながら車内に引き込みます。

2 車いすは助手席シートとリヤシートのあいだに置きます。

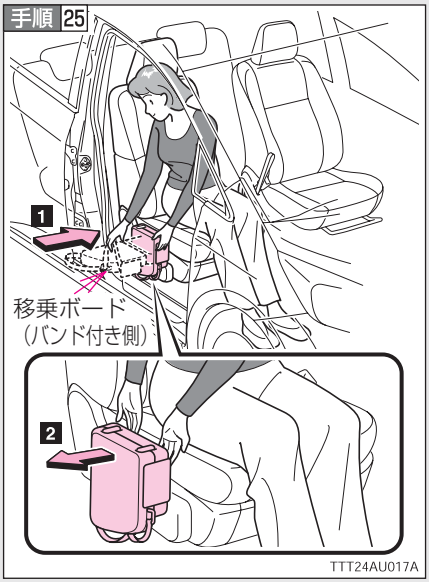
専用リモコンが体から離れないように注意してください。

手順 24



専用リモコンの「リクライニング」前方スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれを前側に起こす

リモコン式専用運転席パワーシートのリクライニングが停止したら、スイッチから指を離します。



移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボードを格納する（1）

- 移乗ボードを格納状態に折りたたみ、移乗ボード（バンド付き側）を上に持ち上げながら、水平方向にロックさせます。
- 格納後、2方向に移乗ボードを押し、移乗ボードが開かないことを確認します。

手順 26 運転席ドアを閉める

手順 27 助手席シートの背もたれをうしろ側に起こし、前後位置を調整する

車いすを軽くゆさぶり、車いすが動かないことを確認します。

手順 28 リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する（→ P.93 ～ 98、標準車取扱書の『正しい運転姿勢』）

手順 29 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する（→ P.32）

専用リモコンはフロントドアポケット以外に収納しないでください。

手順 30 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する
シフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.49 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

知識

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

運転席ドアを全開できるスペースが確保されていること、および周辺に障害物がないことを確認してください。
運転席ドア付近に他の車を駐車されると、車両に乗降できなくなります。

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動条件について

○：作動　×：非作動

ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ ｽﾄｯﾌﾟ ｽｲｯﾁ	パーキングブレーキ	前後位置調整	リクライニング調整	クッション前端の高さ調整	下降作動	上昇作動
イグニッションONモード	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	×	×	×	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	○	○	○	○	○

■専用リモコンについて

- リモコン式専用運転席パワーシートが作動中にスイッチから指を離すと、リモコン式専用運転席パワーシートはその位置で停止します。
- 複数のスイッチを同時に押すと、リモコン式専用運転席パワーシートは作動しません。

知識

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

- ●リモコン式専用運転席パワーシートを操作中に作動が停止した場合は、専用リモコンのスイッチから指を離し、再度スイッチを押してください。
- ●連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートの操作を行うと、モーターが過熱して作動しなくなることがあります。この場合は、10分以上待ってから再度操作してください。
- ●車両のバッテリー電圧が低下している状態では、リモコン式専用運転席パワーシートの作動速度が遅くなります。

⚠警告

■車いす固定用ストラップを車いすに取り付けるときは

必ず車いすのサイド部フレームの、車いす固定用ストラップが前方に動かない場所に通してください。
移乗中に車いす固定用ストラップが動くと、車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■移乗ボードを展開・格納するときは

移乗ボードを展開・格納するときは、バンドを持って操作してください。
バンド以外の場所（ヒンジ部など）を持つと、指などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

●必ず移乗ボードを軽くゆさぶり、移乗ボードが車いすからはずれないことを確認してください。
移乗ボードが確実にセットされていない状態で車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへの移乗を行うと、移乗中に移乗ボードがはずれ、移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●移乗ボード裏面のツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていること、および車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていること（車いす固定用ストラップのフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていること）を確認してください。
・ツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていないと、移乗するときに移乗ボードがはずれ、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
・車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていないと、移乗するときに車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。移乗する前に車いす固定用ストラップにたるみがないこと、およびフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていることを必ず確認してください。

●必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。
移乗するとき、車いすが動いて転倒するおそれがあり危険です。

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するときは

●移乗ボードには、いきおいよく乗り移らないでください。
移乗ボードが損傷し、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●車いすにセットした状態以外で、移乗ボードの上に乗らないでください。
移乗ボードや他の部品が損傷したり、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■強風時の運転席ドアについて

強風時、運転席ドアがいきおいよく閉まることがあります。
車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへ移乗中、運転席ドアがあたるおそれがありますので、注意してください。

⚠ 警告

■車いすを格納したときは

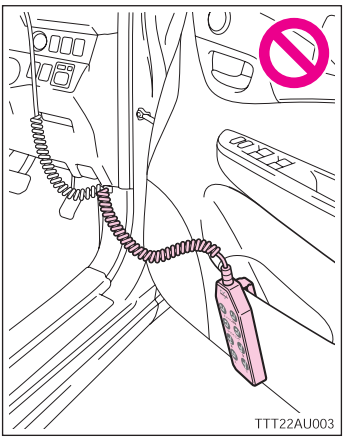
助手席シートの背もたれを必ず起こした状態にし、前後位置を調整し、車いすが確実に格納され、運転操作のさまたげにならないことを確認してください。
確実に格納されていないと、急ブレーキをかけたときなどに車いすが動き、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

■移乗ボードを格納したときは

●大腿部などを挟み込んでいないか、手を添えて確認してください。
挟まれたまま気が付かずにいると、大腿部などを圧迫するおそれがあります。

●移乗ボードを格納した状態で移乗ボードの外側に手を垂らしたり、移乗ボードの外側に手を置いた状態で、運転席ドアを閉めないでください。
手を移乗ボードと運転席ドアのあいだに挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■専用リモコンを収納するときは



●運転席ドアのフロントドアポケットに正しい方向で収納してください。

・専用リモコンがフロントドアポケットの外に出た状態にすると、リモコン式専用運転席パワーシートや車いすなどにあたり、思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。

・取り出し時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。

●運転席ドアのフロントドアポケットには、専用リモコン以外のものを入れないでください。
専用リモコンが破損したり、リモコン式専用運転席パワーシートの誤作動の原因になり、リモコン式専用運転席パワーシートから転落したりするなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために

- リモコン式専用運転席パワーシートは昇降能力 100kg をこえないようにしてください。
  リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
  （移乗ボードの許容荷重も 100kg です）
- 専用リモコンを取り出すときは、コードを持って引っ張り出さないでください。
  コードが断線するおそれがあります。
- 専用リモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。
  - ・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない
  - ・ 分解しない
  - ・ 落としたり、車いすで踏むなどの強い衝撃を与えない
  - ・ 水たまりなど、水中に落下させない
    （防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）
- 専用リモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
  故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。
- 専用リモコンのスイッチの切りかえ操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
  瞬時に切りかえを行うと、リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
- リモコン式専用運転席パワーシートの作動が完了したら、専用リモコンのスイッチから指を離してください。
  スイッチを押し続けると、リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。
- 専用リモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
  表面が変形するおそれがあります。清掃するときは水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

⚠ 注意

■専用リモコンを収納するときは

- 専用リモコンのスイッチを押さないよう注意してください。
- 専用リモコンは必ず運転席ドアのフロントドアポケットに収納してください。
  フロントドアポケット以外の場所に収納すると、運転席ドアを開けたときに専用リモコンが落下し、破損するおそれがあります。

■運転席ドアを閉める前に

移乗ボードを確実に格納してください。
移乗ボードが倒れている状態で運転席ドアを閉めると、ドア内側トリムボードおよび移乗ボードを損傷するおそれがあります。

■運転席ドアを閉めるときは

専用リモコンやコードを運転席ドアに挟み込まないよう注意してください。
専用リモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。

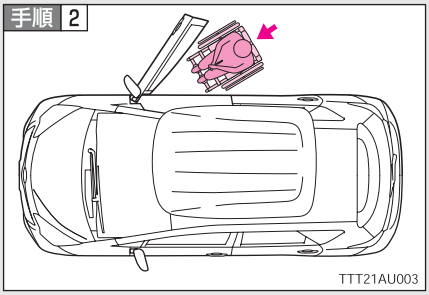
車内外への乗降および車いすの格納：タイプⅢ

ワイヤードリモコンを使用して、車いすをウェルキャリーに格納します。（ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます）

■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1 運転席ドアを全開にする

手順 2

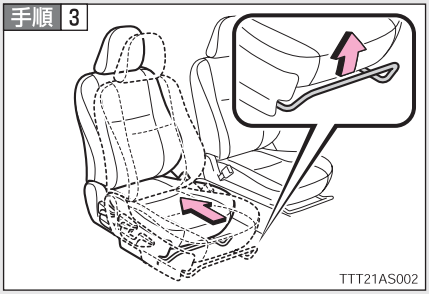


TTT21AU003

車いすを運転席シートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

運転席シートを操作できる位置まで車いすを近付けます。

手順 3

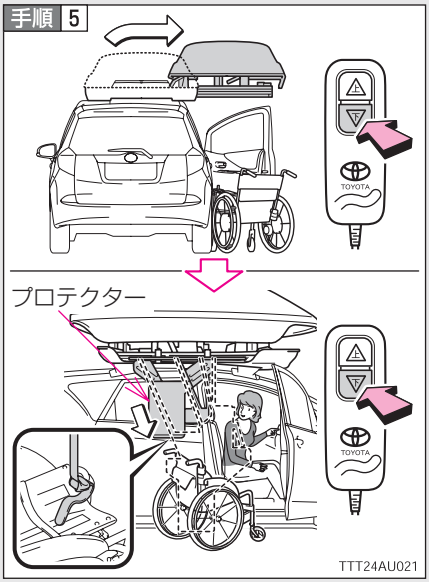


TTT21AS002

運転席シートのスライドレバーを引き上げたまま、運転席シートをいちばんうしろまで移動させる

手順 4 車いすから運転席シートに移乗する

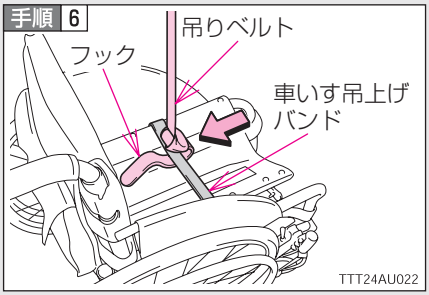
手順 5



ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続け、車いす吊上げバンドに吊りベルトのフックをかけられる位置まで下降させる

- ユニット全体が右側にスライドし、下降前にいったん停止しますので、もう一度ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続けます。
- 下降時、プロテクターが車いすにあたらないように車いすを移動させます。

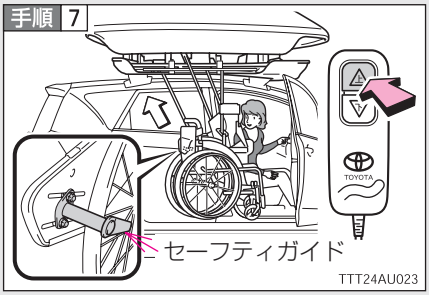
手順 6



吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドに前側からかける

吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドにかけられる位置になるように、車いすの位置を調整し、フックが車いす吊上げバンドに前側から確実にかかっていることを確認します。

手順 7



ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを吊り上げる

車いすに手を添え、車いすの後輪がプロテクターのセーフティガイド内に収まっていることを確認します。

手順 8 さらにワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを格納する
“ピピッ”とブザーが鳴ったことを確認します。

手順 9 運転席ドアを閉める

手順 10 運転席シートを運転に適した位置に調整する
（→標準車取扱書の『フロントシート』、『正しい運転姿勢』）

手順 11 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する
シフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.63 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

知識

■ウェルキャリーの作動条件について

○：作動　×：非作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチ	パーキングブレーキ	振出作動	格納作動
イグニッションONモード	かかっている	×	×
	解除	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモード以外、かつパーキングブレーキがかかっている場合のみ作動します。それ以外は作動しません。

知識

■ウェルキャリー作動について

●ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤードリモコンのスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。

●ウェルキャリーが作動中にワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウェルキャリーはその位置で停止します。

●ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられると、“ピピピッ”とブザーが鳴り、ウェルキャリーは少し反転して停止します。この場合、障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと正常な作動にもどります。

■車いすを格納するときは

ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態）。ウェルキャリーが完全格納されていないときは、シフトロックが働き、シフトレバーを P の位置から動かすことができません。

●ヒューズ切れや故障などにより、ウェルキャリーを完全格納状態にできないときは、P.125 ～ 130 の要領でウェルキャリーを完全格納してから、シフトレバーを操作してください。それでもシフトロックが解除されないときは、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』の要領でシフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P.131）

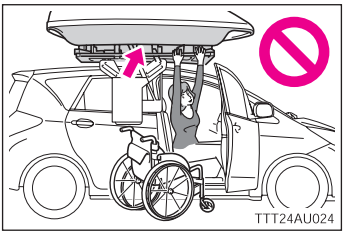
■洗車後や降雨後は

●洗車後や降雨後は、ウェルキャリーより雫が垂れ、ぬれることがありますので、ドアを閉めた状態でウェルキャリーを外にスライドさせてから運転席ドアを開けてください。（洗車後や降雨後のみ）

●洗車後や降雨後の走行時、しばらくのあいだウェルキャリーより雫が垂れることがあります。

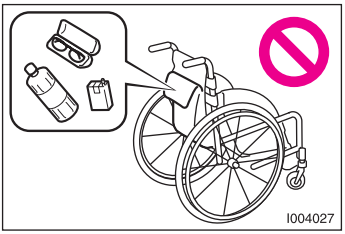
⚠ 警告

■車いすから運転席シートに移乗するときは



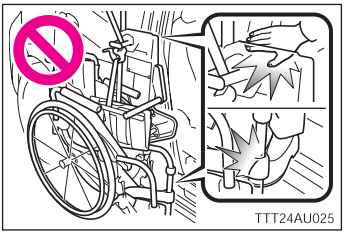
ウェルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。
移乗中に転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■車いすを格納する前に

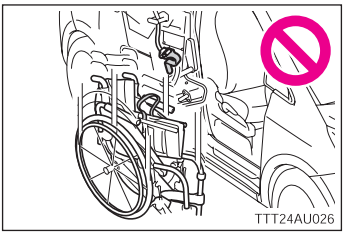


車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものを入れたままにしないでください。
入れたものが落下してけがをするおそれがあり危険です。

■車いすを格納するときは

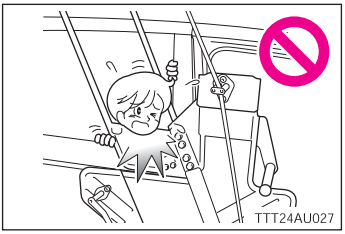


●ウェルキャリーが作動中にウェルキャリーや車いすのすき間などに手足、頭などを入れないでください。
手足、頭などを挟まれけがをするおそれがあります。



●車いすを吊り上げる前に、吊りベルトのフックが車いす吊上げバンドにしっかりとかかっていることを確認してください。
車いすが不意に落下してけがをするおそれがあります。

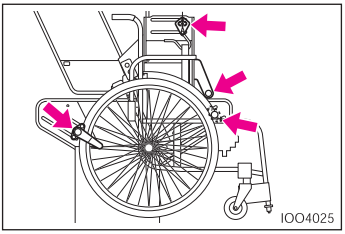
⚠ 警告



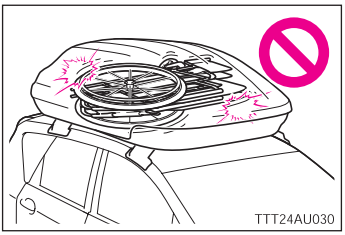
●ウェルキャリーはリヤシートの同乗者に注意して作動させてください。同乗者の手や頭を挟まないように、運転席側のリヤドアおよびドアガラスを閉めてご使用ください。
ドアガラスとウェルキャリーとのあいだに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ウェルキャリーを完全格納以外の状態で止めたまま、長時間放置しないでください。
他の人がさわり思わぬけがをするおそれがあります。

■車いす吊上げバンドの取り付け、調整について



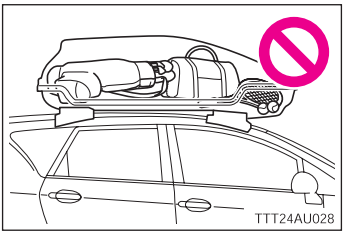
●トヨタ販売店でお客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。



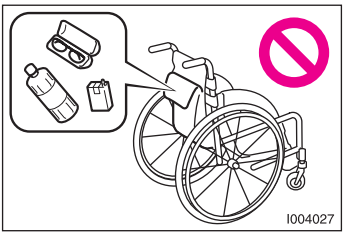
●格納する車いすがかわった場合、必ずトヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。再調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。

⚠ 注意

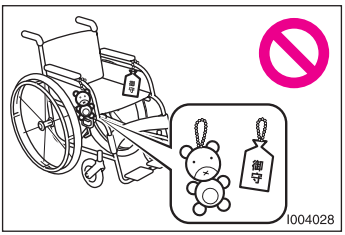
■故障・破損を防ぐために



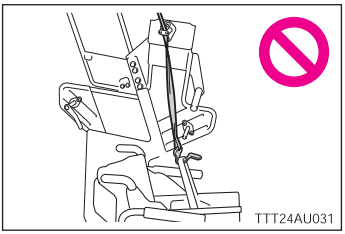
●車いす以外のものを格納しないでください。
車両が損傷したり、ウェルキャリーが故障するおそれがあります。



●車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものを入れたままにしないでください。
入れたものが落下して車両が損傷したり、ウェルキャリーに挟まりウェルキャリーが故障するおそれがあります。

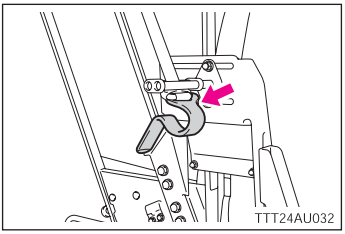


●車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすに取り付けてあるキーホルダーなどのアクセサリーを取りはずしてください。
ウェルキャリーに引っかかってウェルキャリーが作動しなくなり、ウェルキャリーや車いすが損傷したり、アクセサリーが破損するおそれがあります。

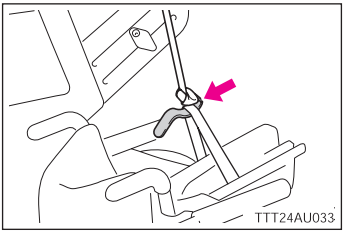


●車いすに吊りベルトのフックをかける前に、吊りベルトがねじれていないことを確認してください。
吊りベルトがからまり、ウェルキャリーが作動しなくなったり、ウェルキャリーが損傷するおそれがあります。

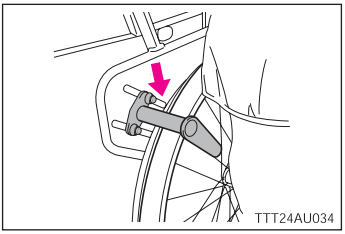
⚠ 注意



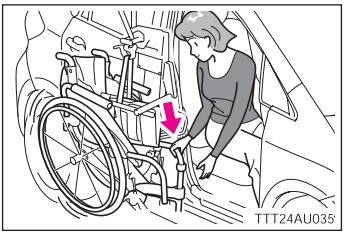
●車いすを搭載していない状態でウェルキャリーを格納するときは、吊りベルトのフックが正しい位置にあることを確認してください。
正しい位置にないと、ウェルキャリーが故障や破損するおそれがあります。



●車いすに吊りベルトのフックをかけるときは、必ず前側からかけてください。
吊りベルトがねじれウェルキャリーが作動しなくなったり、車いすやウェルキャリーが故障するおそれがあります。



●車いすを吊り上げるときは、車いすの後輪がセーフティガイド内に確実に収まっていることを確認してください。
車いすの固定がはずれ、車いすやウェルキャリーが損傷するおそれがあります。



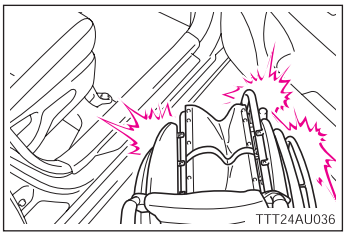
●車いすが地面から離れているときに、車いすがゆれてボデーにあたるおそれがあります。

・ボデーにあたるおそれがある場合は、作動をいったん停止し、車いすに軽く手を添えてゆれを抑えてください。

・ボデーにあたるおそれがなくなったら作動を再開してください。

⚠ 注意

- ウェルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。
  ウェルキャリーやユニットカバーが損傷するおそれがあります。
- ウェルキャリーが作動中にウェルキャリーや車いすのすき間などに荷物を入れないでください。
  荷物を損傷するおそれがあります。
- 車いすを吊り上げる前に吊りベルトのフックが、車いす吊上げバンドにしっかりとかかっていることを確認してください。
  車いすが不意に落下し車いすを損傷するおそれがあります。
- ウェルキャリーを完全格納以外の状態で、放置しないでください。
  車両のバッテリーあがりやウェルキャリーが故障するおそれがあります。
- 連続して何度も作動させないでください。
  - ・ モーターが過熱して、動かなくなることがあります。（モーターが冷えれば、再び作動します）
  - ・ 車両のバッテリー電圧が低下しウェルキャリーが作動しなくなったり、エンジンが始動できなくなります。



- 車いすの下降時に車いすとドアのあいだが狭いときは、車いすを広げる操作ができない場合があります。
  その場合、もう一度車いすを少し吊り上げ、手で位置を調整しながら降ろしてください。

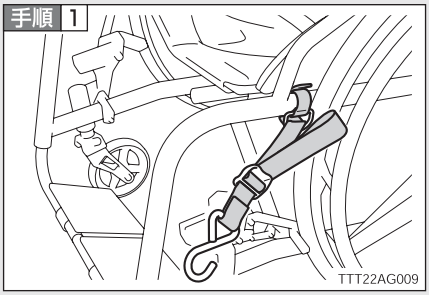
- 車いすを格納する前に、車いすのタイヤに、空気が十分に入っていることを確認してください。（空気圧は、車いす取扱説明書を参照してください。または車いす販売店へ確認してください）
  車いすの固定が不十分になる場合があります。
- ウェルキャリーが作動中に異常を感じたときは、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから手を離し作動を停止してください。

リモコン式専用運転席パワーシートでの車内外への乗降および車いすの格納：タイプⅣ

ワイヤードリモコンを使用して、車いすをウェルキャリーに格納します。（ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます）

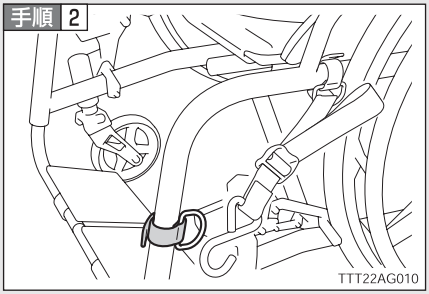
■車内に乗車および車いすを格納するときは

手順 1



車いす固定用ストラップ（フック付き）を車いすのサイド部フレームの、ストラップが前方に動かない場所に通し、マジックテープで確実に固定する

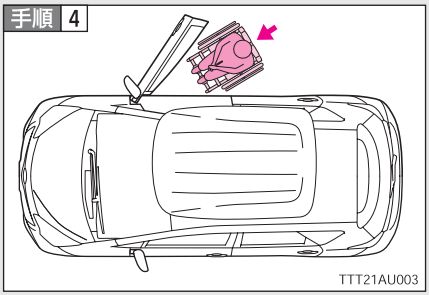
手順 2



車いす固定用ストラップ（リング付き）を車いすの前部フレームに通し、マジックテープで確実に固定する

手順 3 運転席ドアを全開にする

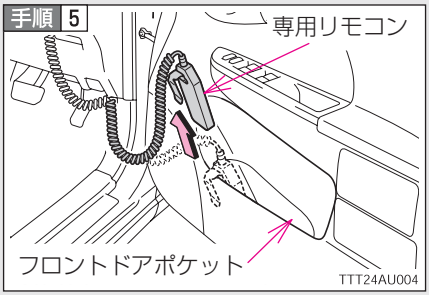
手順 4



車いすをリモコン式専用運転席パワーシートに近付けて止め、車いすのブレーキを両輪ともかける

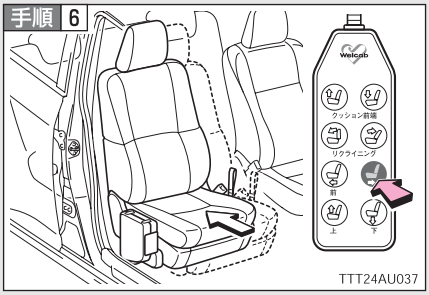
専用リモコンが取り出せる位置まで車いすを近付けます。

手順 5



専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す

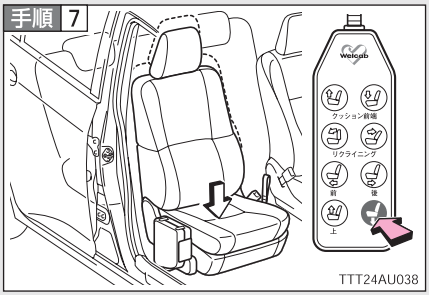
手順 6



専用リモコンの「後」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばんうしろまで移動させる

リモコン式専用運転席パワーシートの後方スライドが停止したら、スイッチから指を離します。

手順 7

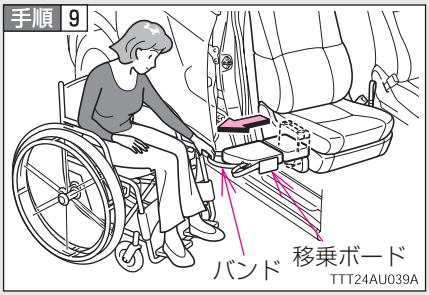


専用リモコンの「下」スイッチを押し続け、リモコン式専用運転席パワーシートをいちばん下まで下降させる

リモコン式専用運転席パワーシートの下降が停止したら、スイッチから指を離します。

手順 8 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する（→ P.32）

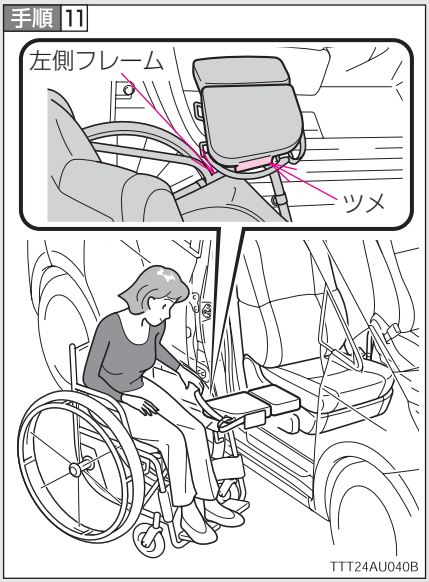
手順 9



バンドを引っ張り、移乗ボードを伸ばす

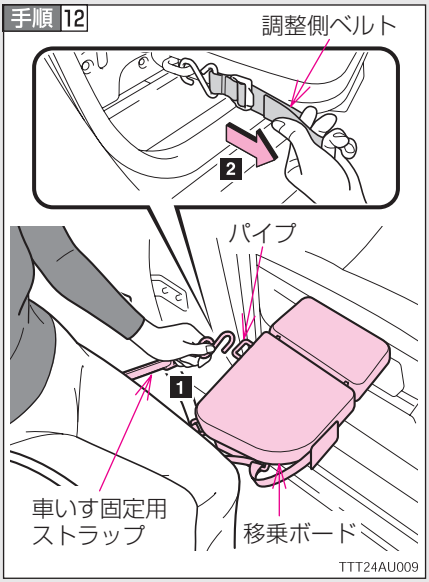
手順 10 車いすのブレーキを両輪とも解除する

手順 11



車いすのサイド部左側フレームに移乗ボード裏面のツメを確実にかける

手順 12

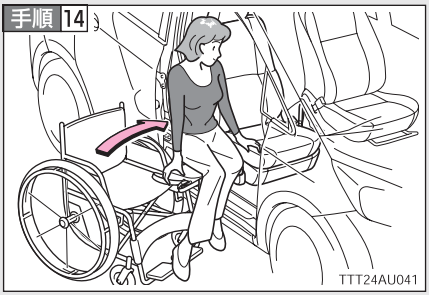


1 車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプにかける

2 調整側ベルトを引っ張り、移乗中に移乗ボードが車いすからはずれないようにする

手順 13 車いすのブレーキを両輪ともかける

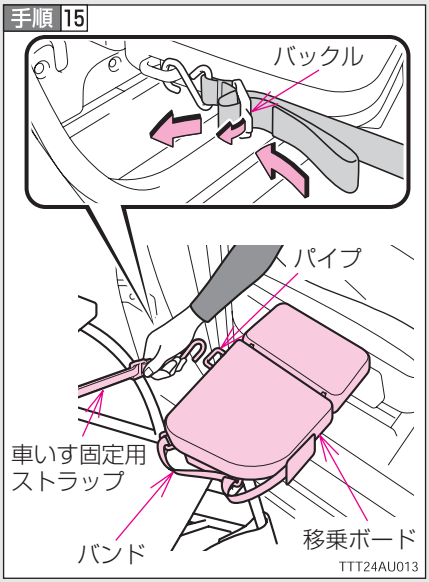
手順 14



移乗ボードの上を通って車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する

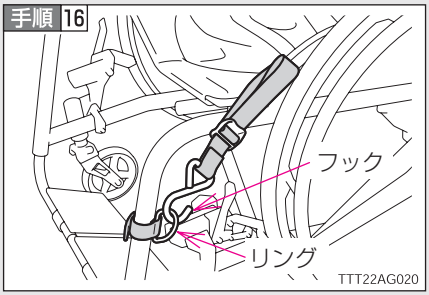
- 移乗ボードの中央付近に手をつき、すべらないように注意しながら移乗します。
- 専用リモコンのコードに引っかからないように注意しながら移乗します。

手順 15



車いす固定用ストラップのバックルを引き上げ、車いす固定用ストラップをゆるめ、車いす固定用ストラップのフックを移乗ボードのパイプからはずす

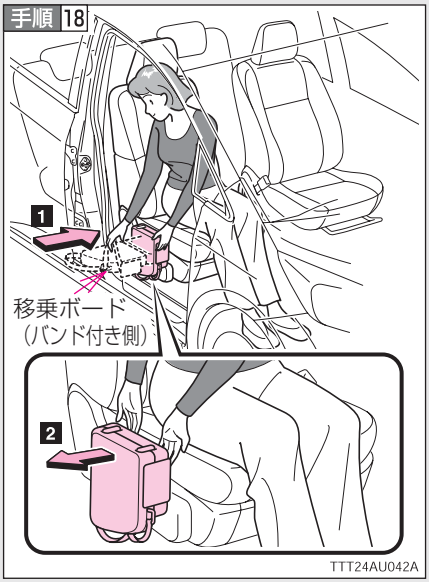
手順 16



車いす固定用ストラップのフックを、車いすに取り付けたリングに引っかける

手順 17 移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボード裏面のツメ（→P.74）を車いすのサイド部左側フレームからはずす

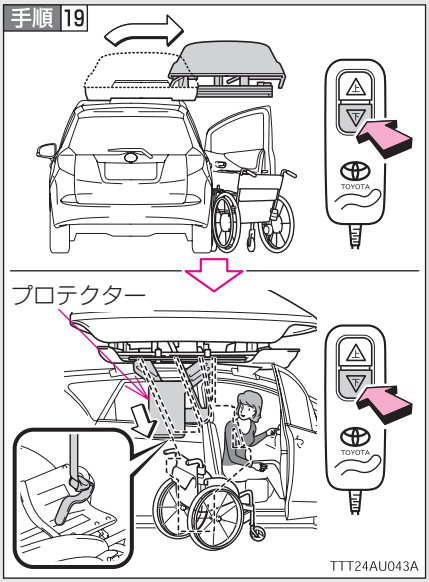
手順 18



移乗ボードのバンドを持ち、移乗ボードを格納する（1）

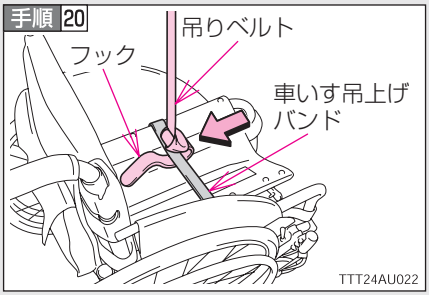
- 移乗ボードを格納状態に折りたたみ、移乗ボード（バンド付き側）を上に持ち上げながら、水平方向にロックさせます。
- 格納後、2方向に移乗ボードを押し、移乗ボードが開かないことを確認します。

手順 19



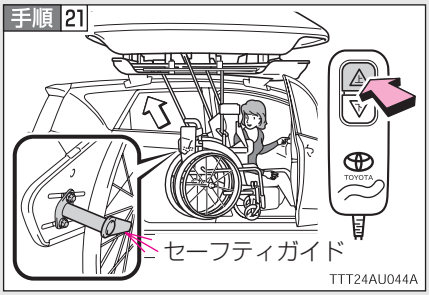
ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続け、車いす吊上げバンドに吊りベルトのフックをかけられる位置まで下降させる

- ユニット全体が右側にスライドし、下降前にいったん停止しますので、もう一度ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続けます。
- 下降時、プロテクターが車いすにあたらないように車いすを移動させます。



手順 20 吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドに前側からかける

吊りベルトのフックを車いす吊上げバンドにかけられる位置になるように、車いすの位置を調整し、フックが車いす吊上げバンドに前側から確実にかかっていることを確認します。



手順 21 ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを吊り上げる

車いすに手を添え、車いすの後輪がプロテクターのセーフティガイド内に収まっていることを確認します。

手順 22 さらにワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、車いすを格納する

“ピピッ”とブザーが鳴ったことを確認します。

手順 23 運転席ドアを閉める

手順 24 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットから取り出す（→ P.73）

手順 25 リモコン式専用運転席パワーシートを運転に適した位置に調整する（→ P.93 ～ 98、標準車取扱書の『正しい運転姿勢』）

手順 26 専用リモコンを運転席ドアのフロントドアポケットに収納する（→ P.32）

専用リモコンはフロントドアポケット以外に収納しないでください。

手順 27 シートベルトを着用する（→標準車取扱書の『シートベルト』）

■車いすを車外に出すときおよび車外に降車するときは

手順 1 安全で平坦な場所に停車する
シフトレバーをPの位置にし、パーキングブレーキをかけます。

手順 2 エンジンを停止し、シートベルトをはずす

手順 3 P.72 の『■車内に乗車および車いすを格納するときは』の逆の手順で車いすを車外に出す、および車外に降車する

知識

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

運転席ドアを全開できるスペースが確保されていること、および周辺に障害物がないことを確認してください。
運転席ドア付近に他の車を駐車されると、車両に乗降できなくなります。

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動条件について

○：作動　×：非作動

ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ ｽﾄｯﾌﾟ ｽｲｯﾁ	パーキングブレーキ	前後位置調整	リクライニング調整	クッション前端の高さ調整	下降作動	上昇作動
イグニッションONモード	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	×	×	×	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	○	○	○	○	○

■専用リモコンについて

- リモコン式専用運転席パワーシートが作動中にスイッチから指を離すと、リモコン式専用運転席パワーシートはその位置で停止します。
- 複数のスイッチを同時に押すと、リモコン式専用運転席パワーシートは作動しません。

知識

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

●リモコン式専用運転席パワーシートを操作中に作動が停止した場合は、専用リモコンのスイッチから指を離し、再度スイッチを押してください。

●連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートの操作を行うと、モーターが過熱して作動しなくなることがあります。この場合は、10分以上待ってから再度操作してください。

●車両のバッテリー電圧が低下している状態では、リモコン式専用運転席パワーシートの作動速度が遅くなります。

■ウェルキャリーの作動条件について

○：作動　　×：非作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチ	パーキングブレーキ	振出作動	格納作動
イグニッションONモード	かかっている	×	×
	解除	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモード以外、かつパーキングブレーキがかかっている場合のみ作動します。それ以外は作動しません。

知識

■ウェルキャリー作動について

●ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押し、“ピーッ”とブザーが鳴ってから作動します。断続的にワイヤードリモコンのスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。

●ウェルキャリーが作動中にワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから指を離すと、ウェルキャリーはその位置で停止します。

●ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられると、“ピピピッ”とブザーが鳴り、ウェルキャリーは少し反転して停止します。この場合、障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと正常な作動にもどります。

■車いすを格納するときは

ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態）。ウェルキャリーが完全格納されていないときは、シフトロックが働き、シフトレバーをPの位置から動かすことができません。

●ヒューズ切れや故障などにより、ウェルキャリーを完全格納状態にできないときは、P.125 ～ 130の要領でウェルキャリーを完全格納してから、シフトレバーを操作してください。それでもシフトロックが解除されないときは、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』の要領でシフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→P.131）

■洗車後や降雨後は

●洗車後や降雨後は、ウェルキャリーより雫が垂れ、ぬれることがありますので、ドアを閉めた状態でウェルキャリーを外にスライドさせてから運転席ドアを開けてください。（洗車後や降雨後のみ）

●洗車後や降雨後の走行時、しばらくのあいだウェルキャリーより雫が垂れることがあります。

⚠ 警告

■車いす固定用ストラップを車いすに取り付けるときは

必ず車いすのサイド部フレームの、車いす固定用ストラップが前方に動かない場所に通してください。
移乗中に車いす固定用ストラップが動くと、車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■移乗ボードを展開・格納するときは

移乗ボードを展開・格納するときは、バンドを持って操作してください。
バンド以外の場所（ヒンジ部など）を持つと、指などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗する前に

●必ず移乗ボードを軽くゆさぶり、移乗ボードが車いすからはずれないことを確認してください。
移乗ボードが確実にセットされていない状態で車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへの移乗を行うと、移乗中に移乗ボードがはずれ、移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●移乗ボード裏面のツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていること、および車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていること（車いす固定用ストラップのフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていること）を確認してください。

・ツメが車いすのサイド部左側フレームに確実にかかっていないと、移乗するときに移乗ボードがはずれ、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

・車いすが車いす固定用ストラップで確実に固定されていないと、移乗するときに車いすが動き、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。移乗する前に車いす固定用ストラップにたるみがないこと、およびフックが移乗ボードのパイプに確実にかかっていることを必ず確認してください。

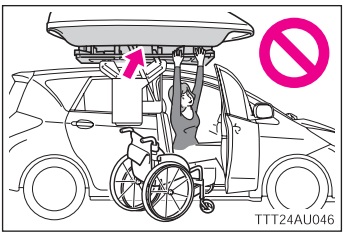
●必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。
移乗するとき、車いすが動いて転倒するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■車いすからリモコン式専用運転席パワーシートに移乗するときは

●移乗ボードには、いきおいよく乗り移らないでください。
移乗ボードが損傷し、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●車いすにセットした状態以外で、移乗ボードの上に乗らないでください。
移乗ボードや他の部品が損傷したり、転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

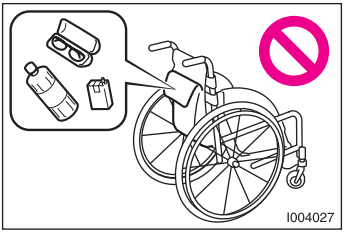

TTT24AU046

●ウェルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。
移乗ボードから転落するなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■強風時の運転席ドアについて

強風時、運転席ドアがいきおいよく閉まることがあります。
車いすからリモコン式専用運転席パワーシートへ移乗中、運転席ドアがあたるおそれがありますので、注意してください。

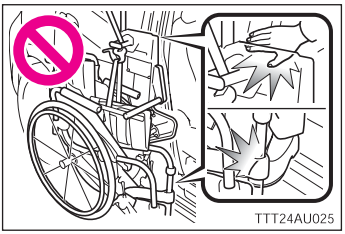
■車いすを格納する前に


I004027

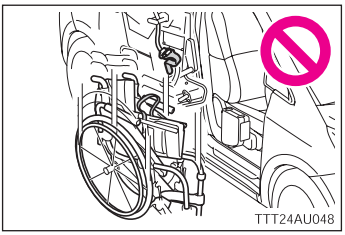
車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものを入れたままにしないでください。
入れたものが落下してけがをするおそれがあり危険です。

⚠ 警告

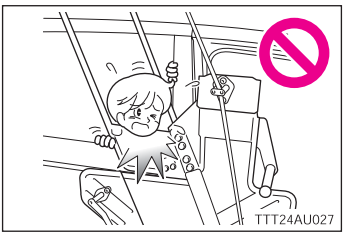
■車いすを格納するときは



●ウェルキャリーが作動中にウェルキャリーや車いすのすき間などに手足、頭などを入れないでください。
手足、頭などを挟まれけがをするおそれがあります。



●車いすを吊り上げる前に、吊りベルトのフックが車いす吊上げバンドにしっかりとかかっていることを確認してください。
車いすが不意に落下してけがをするおそれがあります。



●ウェルキャリーはリヤシートの同乗者に注意して作動させてください。同乗者の手や頭を挟まないように、運転席側のリヤドアおよびドアガラスを閉めてご使用ください。
ドアガラスとウェルキャリーとのあいだに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ウェルキャリーを完全格納以外の状態で止めたまま、長時間放置しないでください。
他の人がさわり思わぬけがをするおそれがあります。

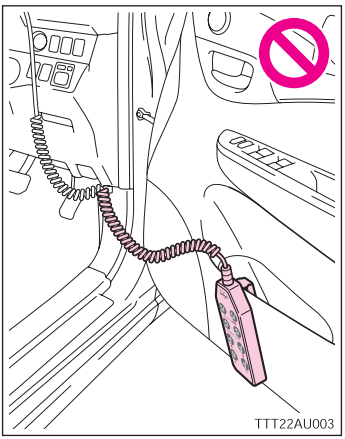
⚠ 警告

■移乗ボードを格納したときは

●大腿部などを挟み込んでいないか、手を添えて確認してください。
挟まれたまま気が付かずにいると、大腿部などを圧迫するおそれがあります。

●移乗ボードを格納した状態で移乗ボードの外側に手を垂らしたり、移乗ボードの外側に手を置いた状態で、運転席ドアを閉めないでください。
手を移乗ボードと運転席ドアのあいだに挟まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■専用リモコンを収納するときは



●運転席ドアのフロントドアポケットに正しい方向で収納してください。

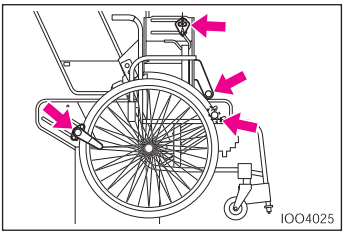
・専用リモコンがフロントドアポケットの外に出た状態にすると、リモコン式専用運転席パワーシートや車いすなどにあたり、思わぬ動きをして重大な事故につながるおそれがあり危険です。

・取り出し時に引っかかったり、コードがねじれて断線につながるおそれがあります。

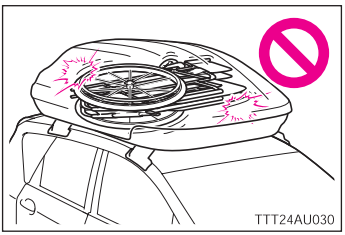
●運転席ドアのフロントドアポケットには、専用リモコン以外のものを入れないでください。
専用リモコンが破損したり、リモコン式専用運転席パワーシートの誤作動の原因になり、リモコン式専用運転席パワーシートから転落したりするなど、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■車いす吊上げバンドの取り付け、調整について



●トヨタ販売店でお客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。



●格納する車いすがかわった場合、必ずトヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。再調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。

⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために

●リモコン式専用運転席パワーシートは昇降能力 100kg をこえないようにしてください。
リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。
（移乗ボードの許容荷重も 100kg です）

●専用リモコンを取り出すときは、コードを持って引っ張り出さないでください。
コードが断線するおそれがあります。

⚠ 注意

●専用リモコンは電子部品のため、次のことを必ずお守りください。

・ ダッシュボードの上など、直射日光のあたる場所および高温になるところに置かない

・ 分解しない

・ 落としたり、車いすで踏むなどの強い衝撃を与えない

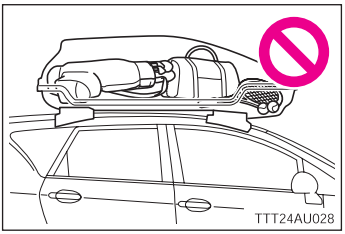
・ 水たまりなど、水中に落下させない
（防滴構造ですが、できるだけ水にぬらさないでください）

●専用リモコンのスイッチを断続的に押さないでください。
故障の原因になりますので、スイッチは押し続けてください。

●専用リモコンのスイッチの切りかえ操作をするときは、約 1 秒以上たってから行ってください。
瞬時に切りかえを行うと、リモコン式専用運転席パワーシートが故障するおそれがあります。

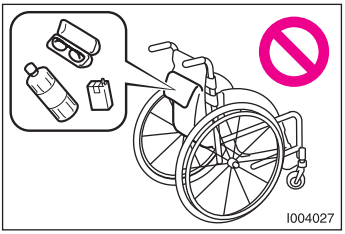
●リモコン式専用運転席パワーシートの作動が完了したら、専用リモコンのスイッチから指を離してください。
スイッチを押し続けると、リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。

●専用リモコンの清掃にシンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。
表面が変形するおそれがあります。清掃するときは水またはぬるま湯を布などに含ませ、固くしぼってからふいてください。

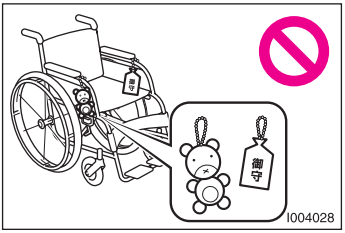


●車いす以外のものを格納しないでください。
車両が損傷したり、ウェルキャリーが故障するおそれがあります。

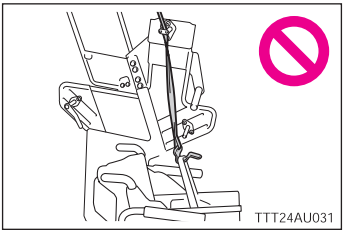
⚠ 注意



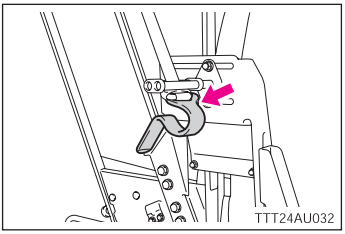
●車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすのポケットなどにものを入れたままにしないでください。
入れたものが落下して車両が損傷したり、ウェルキャリーに挟まりウェルキャリーが故障するおそれがあります。



●車いすをウェルキャリーに格納する前に、車いすに取り付けてあるキーホルダーなどのアクセサリーを取りはずしてください。
ウェルキャリーに引っかかってウェルキャリーが作動しなくなり、ウェルキャリーや車いすが損傷したり、アクセサリーが破損するおそれがあります。

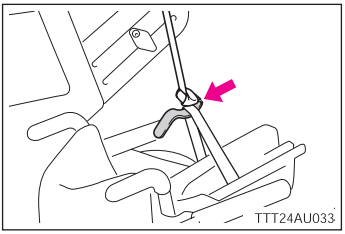


●車いすに吊りベルトのフックをかける前に、吊りベルトがねじれていないことを確認してください。
吊りベルトがからまり、ウェルキャリーが作動しなくなったり、ウェルキャリーが損傷するおそれがあります。

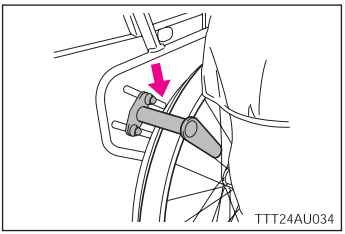


●車いすを搭載していない状態でウェルキャリーを格納するときは、吊りベルトのフックが正しい位置にあることを確認してください。
正しい位置にないと、ウェルキャリーが故障や破損するおそれがあります。

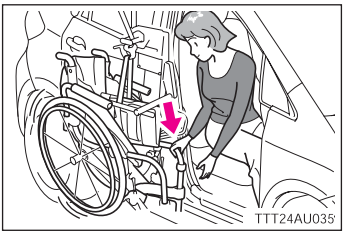
⚠注意



●車いすに吊りベルトのフックをかけるときは、必ず前側からかけてください。
吊りベルトがねじれウェルキャリーが作動しなくなったり、車いすやウェルキャリーが故障するおそれがあります。



●車いすを吊り上げるときは、車いすの後輪がセーフティガイド内に確実に収まっていることを確認してください。
車いすの固定がはずれ、車いすやウェルキャリーが損傷するおそれがあります。



●車いすが地面から離れているときに、車いすがゆれてボデーにあたるおそれがあります。
- ボデーにあたるおそれがある場合は、作動をいったん停止し、車いすに軽く手を添えてゆれを抑えてください。
- ボデーにあたるおそれがなくなったら作動を再開してください。

●ウェルキャリーにぶら下がったり、ユニットカバーなどを持たないでください。
ウェルキャリーやユニットカバーが損傷するおそれがあります。

●ウェルキャリーが作動中にウェルキャリーや車いすのすき間などに荷物を入れないでください。
荷物を損傷するおそれがあります。

●車いすを吊り上げる前に吊りベルトのフックが、車いす吊上げバンドにしっかりとかかっていることを確認してください。
車いすが不意に落下し車いすを損傷するおそれがあります。

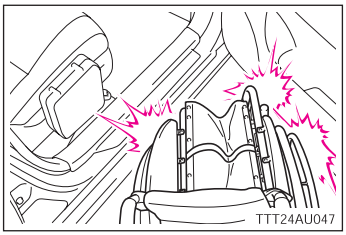
●ウェルキャリーを完全格納以外の状態で、放置しないでください。
車両のバッテリーあがりやウェルキャリーが故障するおそれがあります。

⚠ 注意

●連続して何度も作動させないでください。

・ モーターが過熱して、動かなくなることがあります。（モーターが冷えれば、再び作動します）

・ 車両のバッテリー電圧が低下しウェルキャリーが作動しなくなったり、エンジンが始動できなくなります。



●車いすの下降時に車いすとドアのあいだが狭いときは、車いすを広げる操作ができない場合があります。
その場合、もう一度車いすを少し吊り上げ、手で位置を調整しながら降ろしてください。

●車いすを格納する前に、車いすのタイヤに、空気が十分に入っていることを確認してください。（空気圧は、車いす取扱説明書を参照してください。または車いす販売店へ確認してください）
車いすの固定が不十分になる場合があります。

●ウェルキャリーが作動中に異常を感じたときは、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチから手を離し作動を停止してください。

■専用リモコンを収納するときは

●専用リモコンのスイッチを押さないよう注意してください。

●専用リモコンは必ず運転席ドアのフロントドアポケットに収納してください。
フロントドアポケット以外の場所に収納すると、運転席ドアを開けたときに専用リモコンが落下し、破損するおそれがあります。

■運転席ドアを閉める前に

移乗ボードを確実に格納してください。
移乗ボードが倒れている状態で運転席ドアを閉めると、ドア内側トリムボードおよび移乗ボードを損傷するおそれがあります。

■運転席ドアを閉めるときは

専用リモコンやコードを運転席ドアに挟み込まないよう注意してください。
専用リモコンが破損したり、コードが断線するおそれがあります。

運転する前に／運転するときに 3

3-1. 助手席前倒し機構＆操作ストラップ：タイプⅡ
助手席前倒し機構＆操作ストラップ 92

3-2. リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ
リモコン式専用運転席パワーシートの調整.....93
ヘッドレスト.....98

3-3. ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ
ウェルキャリー 99
車いす吊上げバンド 106

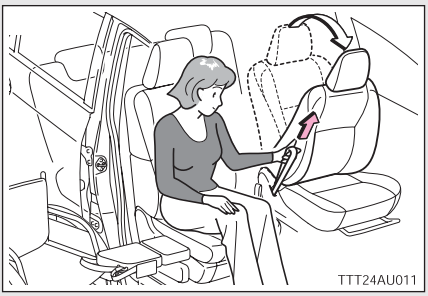
3-4. 運転にあたって
専用パワーステアリング.....107

3-5. バックドアの開閉
バックドアストラップ.....108

助手席前倒し機構＆操作ストラップ

運転席側から助手席シートの背もたれを前側に倒すことができます。

■前倒しのしかた



操作ストラップを引く

⚠ 警告

■助手席前倒し機構＆操作ストラップについて

助手席前倒し機構＆操作ストラップを他の部品に引っかけたり、挟み込ませないでください。

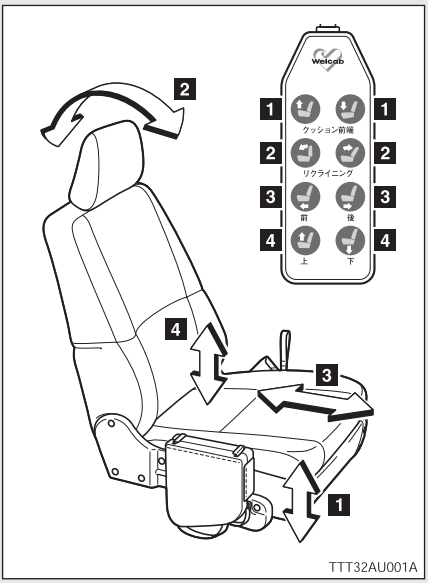
助手席前倒し機構＆操作ストラップが引かれ、背もたれが思わぬ動き（前倒れ）をするおそれがあります。

リモコン式専用運転席パワーシートの調整

リモコン式専用運転席パワーシートの調整をするときは、車両を止め、シフトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけた状態で行います。

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードでは、パーキングブレーキをかけていないと、リモコン式専用運転席パワーシートの調整はできません。

■調整のしかた



1 クッション前端の高さ調整

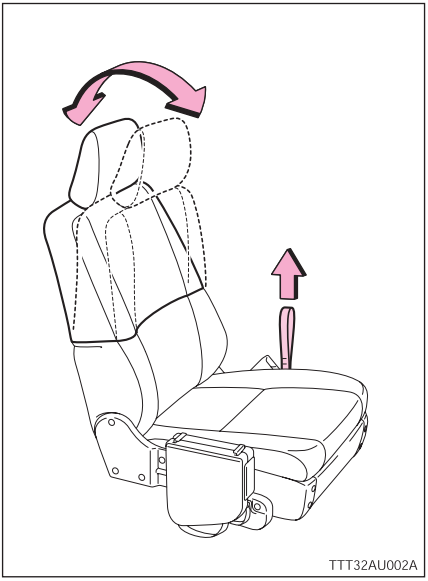
2 リクライニング調整

3 前後位置調整

4 シート全体の昇降

中折れ式シートバック

背もたれの上部３分の２を前後に倒せます。



シートバック中折れ用ストラップを引く

調整後、背もたれを軽くゆさぶり、確実にロックされていることを確認します。

知識

■作動条件について

○：作動　×：非作動

ｴﾝｼﾞﾝ ｽﾀｰﾄ ｽﾄｯﾌﾟ ｽｲｯﾁ	パーキングブレーキ	前後位置調整	リクライニング調整	クッション前端の高さ調整	下降作動	上昇作動
イグニッションONモード	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	×	×	×	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○	○	○	○
	解除	○	○	○	○	○

- 車両のバッテリー電圧が低下している状態では、リモコン式専用運転席パワーシートの作動速度が遅くなります。
- 走行中はリモコン式専用運転席パワーシートの調整ができません。

知識

■専用リモコンについて

●リモコン式専用運転席パワーシートが作動中にスイッチから指を離すと、リモコン式専用運転席パワーシートはその位置で停止します。

●複数のスイッチを同時に押すと、リモコン式専用運転席パワーシートは作動しません。

■リモコン式専用運転席パワーシートについて

リモコン式専用運転席パワーシートは標準車のシートとは異なります。リクライニング角度（フルリクライニングはできません）、シートバック角度、シート前後スライド量は標準車とは異なります。運転前に必ず正しい運転姿勢がとれるか確認してください。
（正しい運転姿勢→標準車取扱書の『正しい運転姿勢』）

■リモコン式専用運転席パワーシートの前後スライド量について

前後に合計 180mm 移動することができます。

■リモコン式専用運転席パワーシートの作動について

●リモコン式専用運転席パワーシートを操作中に作動が停止した場合は、専用リモコンのスイッチから指を離し、再度スイッチを押してください。

●連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートの操作を行うと、モーターが過熱して作動しなくなることがあります。この場合は、10分以上待ってから再度操作してください。

■シートアレンジについて

リモコン式専用運転席パワーシートはフラットシートにすることはできません。

⚠ 警告

■リモコン式専用運転席パワーシートの調整について

- リモコン式専用運転席パワーシートが乗員や荷物にあたらないように注意してください。
- リモコン式専用運転席パワーシートの側面や下部および動いている部分に手などを近付けないでください。
  指や手などを挟み、けがをするおそれがあります。
- 前後位置調整するときは、手足を挟まれないか注意しながら行ってください。
  特に感覚のない足が挟まれたまま気付かずにいると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シートバック中折れ用ストラップが他の部品に引っかかっていないことを確認してください。また、シートバック中折れ用ストラップを他の部品に引っかけたり、挟み込ませないでください。
  シートバック中折れ用ストラップが引かれ、背もたれが思わぬ動き（前倒れ）をするおそれがあります。

■走行中は

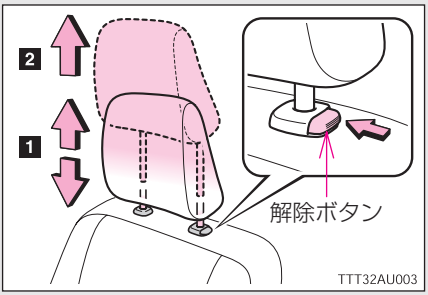
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- リモコン式専用運転席パワーシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとリモコン式専用運転席パワーシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因にもなります。

⚠ 注意

■故障・破損を防ぐために

- 専用リモコンを使用してリモコン式専用運転席パワーシートの調整を行うときは、作動が完了したらスイッチから指を離してください。
  リモコン式専用運転席パワーシートの故障の原因になります。
- リヤシートが折りたたまれた状態でリモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒すときは、リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれがリヤシートにあたらないことを確認しながら行ってください。
  リモコン式専用運転席パワーシートの背もたれとリヤシートがあたったままリモコン式専用運転席パワーシートの背もたれをうしろ側に倒す操作を続けると、シートが破損するおそれがあります。また、中折れ式シートバック機構の故障につながるおそれがあります。

ヘッドレスト



1 上下調整

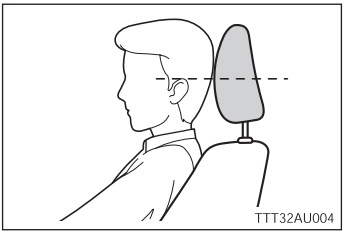
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

2 取りはずし

解除ボタンを押したまま取りはずします。

知識

■ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるように調整してください。

⚠警告

■ヘッドレストについて

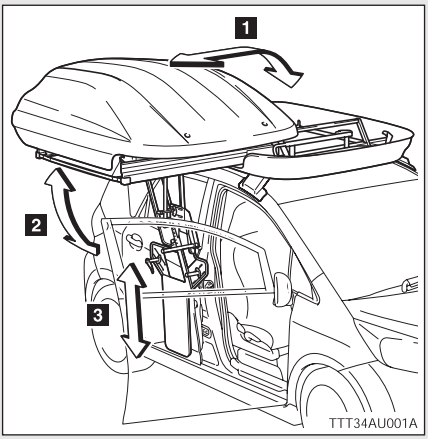
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストは正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ウェルキャリー

ワイヤードリモコンを使用して、ウェルキャリーを振出・格納させ、車いすをウェルキャリーに格納することができます。（ワイヤレスリモコンでも、同様の操作が行えます）

■作動のしかた

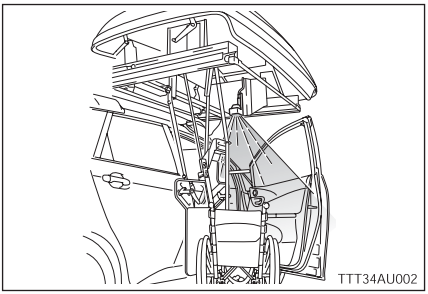


1 スライド

2 回転

3 上昇・下降

夜間照明灯



ウェルキャリーを振出すと点灯し、次のいずれかの状態で消灯します。

- 完全格納
- 何も操作せず約 20 分経過

  振出スイッチまたは格納スイッチを押すと再点灯します。
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードまたはパーキングブレーキを解除

  ウェルキャリーの作動条件をすべて満たすと再点灯します。

知識

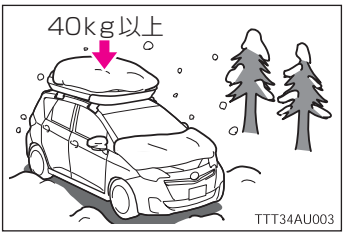
■作動条件について

○：作動　　×：非作動

“エンジン スタート ストップ”スイッチ	パーキングブレーキ	振出作動	格納作動
イグニッションONモード	かかっている	×	×
	解除	×	×
イグニッションONモード以外	かかっている	○	○
	解除	×	×

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモード以外、かつパーキングブレーキがかかっている場合のみ作動します。それ以外は作動しません。

■保護機能について



ウェルキャリー破損防止のため、完全格納状態から作動させる場合は、ユニットカバー上に異常負荷（40kg以上）がかかると、作動条件をすべて満たしていても保護機能が働き、ウェルキャリーは作動しません。

■ウェルキャリーについて

- ルーフ上のウェルキャリー内部に手が届かない方は、故障時の緊急格納作業ができません。故障時はトヨタ販売店にご連絡ください。
- ウェルキャリーを作動させる前に、必ず“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモード以外にし、パーキングブレーキをかけてください。そうしないとウェルキャリーは作動できません。
- ワイヤードリモコンの格納スイッチを、“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続けて完全格納してください（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態）。ウェルキャリーが完全格納されていないときは、シフトロックが働き、シフトレバーをPの位置から動かすことができません。
- 車両のバッテリーがあがってしまうとウェルキャリーの操作ができなくなります。

知識

●ヒューズ切れや故障などにより、ウェルキャリーを完全格納状態にできないときは、P.125 ～ 130 の要領でウェルキャリーを完全格納してから、シフトレバーを操作してください。それでもシフトロックが解除されないときは、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』の要領でシフトロックを解除し、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.131）

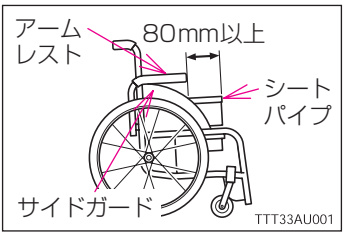
■ウェルキャリーの作動について

ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられると、“ピピピッ”とブザーが鳴り、ウェルキャリーは少し反転して停止します。この場合、障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤードリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押すと正常な作動にもどります。

■搭載可能な車いすの目安

●搭載可能な車いすは次のサイズのものになります。

大車輪径	全高	全長	折りたたみ幅	重量
20～24インチ	870mm以下	960mm以下	390mm以下	28kg以下



●シートパイプ前端から 80mm 以上のスペースが確保されていることを確認してください。シートパイプ前端から 80mm 以内にアームレストやサイドガード、自操用操作部（ジョイスティックなど）がある車いすは、上表のサイズであっても格納できません。

●上記のサイズであっても車いすによっては格納できないものがあります（→ P.48）。車いすを新規にご購入される場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●移乗可能な車いすの目安はウェルキャリーに搭載可能な車いすの目安とは異なります。（→ P.43）

知識

■ブザー音について

●動作や状況に応じて次のようにブザーが鳴ります。

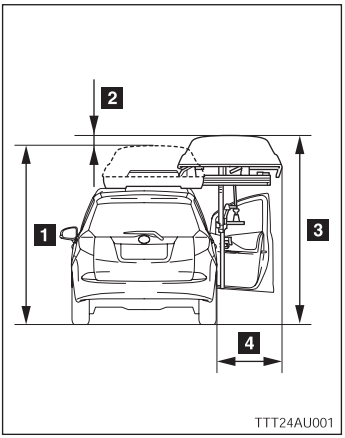
ブザー音		動作・状況
正常時	ピーッ	ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンのスイッチを押して、ウェルキャリーが作動するとき
	ピッ…ピッ…※	ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンのスイッチを押して、ウェルキャリーが作動中のとき
	ピピッ	ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンの振出スイッチを押して、ウェルキャリーが振出中にいったん停止するとき
		ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンの格納スイッチを押して、ウェルキャリーが完全格納したとき、または完全格納状態で格納スイッチを押したとき
異常時	ピッピッピッ…	ウェルキャリーが完全格納されていない状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモードにしたとき
	ピピピッ	ウェルキャリーが作動中、障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられたとき

※：スイッチを押しているあいだ、鳴り続けます。

●ブザー音が連続になった場合は故障の可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

■ウェルキャリーを使用する前に



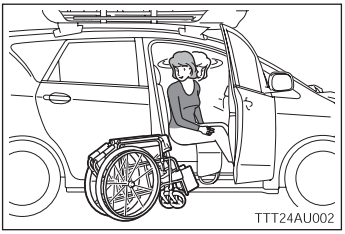
●走行状態の全高はFF車：2120mm、4WD車：2140mmになります（1）。高架下や立体駐車場など高さ制限のあるところを走行する場合は、高さに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●作動時にはウェルキャリーが120mm持ち上がり（2）、全高がFF車：2240mm、4WD車：2260mmになります（3）。作動させる前に、十分な高さがあることを確認してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ウェルキャリーは車両右側に790mmスライドします（4）。隣の車や建物などに注意してください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

※：各寸法値は設計値を示します。
実測値は若干異なることがあります。

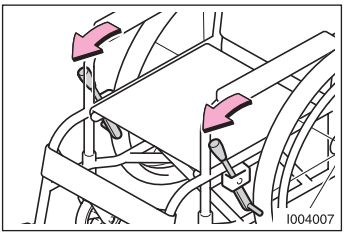
●ウェルキャリーを作動させる前に、歩行者や自転車、バイクなど後続車に注意してください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



●ウェルキャリーを作動させる前に、周囲に人がいないことを確認してください。
ウェルキャリーやボデーのすき間に、頭や手などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、夜間は特に見えにくくなるため、注意して操作を行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

●お子さまやウェルキャリーの操作を理解されていない方には、ウェルキャリーの操作をさせないでください。
ウェルキャリー可動部に挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



●格納する前に、必ず車いすのブレーキを両輪ともかけてください。
車いすを降ろしたときに、車いすが動き出し、けがをするおそれがあります。

⚠ 注意

■搭載可能な車いすについて

●搭載可能な車いすの最大重量は 28kg です。
28kg 以下の車いすをご使用ください。

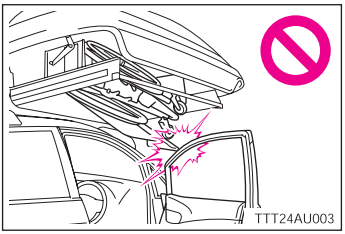
●所定以外の車いすを格納しないでください。
車いすを傷付けたり、ウェルキャリーを破損させるおそれがあります。
（→ P.101）

■ウェルキャリーを長期間使用しないときは

車いすをウェルキャリーに搭載したままにしないでください。
車いすが変形するおそれがあります。

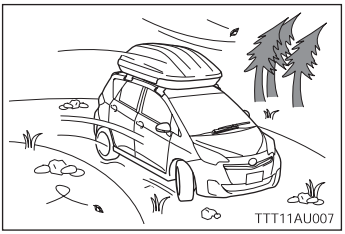
⚠ 注意

■ウェルキャリーを使用する前に



ウェルキャリーを作動させる前に、運転席ドアを全開にしてください。
車いすやウェルキャリーで運転席ドアを傷付けるおそれがあります。

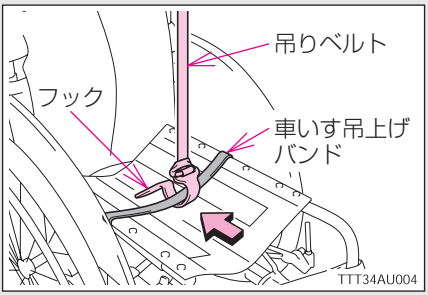
■走行中は



強風（横風）時や急カーブ、不整地などの走行時は、スピードを抑えて安全運転をしてください。

車いす吊上げバンド

ウェルキャリーに車いすを格納するとき、車いすを吊り上げるためのバンドです。長さの異なるバンドが３本同梱されています。格納する車いすに合わせてお選びください。（残りのバンドは、異なるサイズの車いすにかえたときのために保管してください）

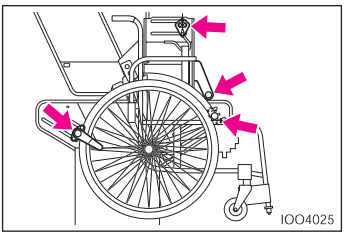


吊りベルトのフックを前側からかける

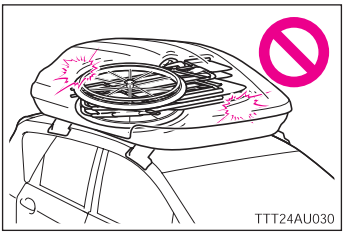
※イラストは取り付け例です。

⚠ 警告

■車いす吊上げバンドの取り付け、調整について



●トヨタ販売店でお客様の車いすに合わせてウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの取り付け、調整を行ってください。調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。



●格納する車いすがかわった場合、必ずトヨタ販売店でウェルキャリーの車いす固定部の調整と車いす吊上げバンドの再調整を行ってください。再調整をしていないときは、格納しないでください。
車いすの固定がはずれ、車いすが不意に落下しけがをしたり、車いすやウェルキャリーが破損するおそれがあります。

専用パワーステアリング

発進時や低速走行時の操作性向上のため、操作に必要な力を標準車にくらべて約 50%軽減しています。

⚠ 警告

■ステアリング操作について

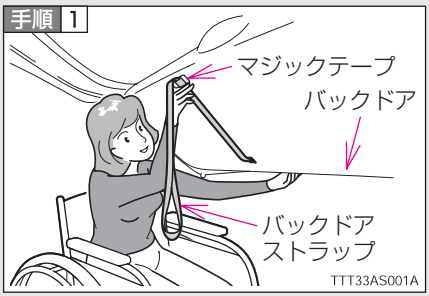
標準車にくらべて大幅にステアリングの操舵力が軽くなっていますので、はじめてこの車両を運転されるときは、特にご注意ください。

バックドアストラップ

車いすに座ったまま、バックドアを閉める方向に引き寄せることができます。

■バックドアの開け方

手順 1

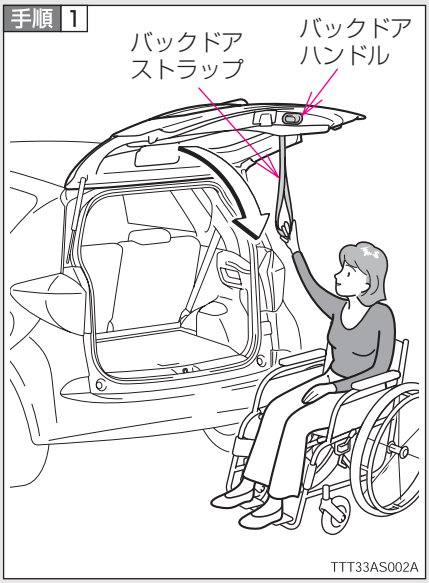


バックドアを少し開け、片方の手でバックドアハンドルを持ってバックドアを支え、もう片方の手でバックドアストラップのマジックテープをはがす

手順 2 バックドアストラップを持ち、バックドアを全開にする

■バックドアの閉め方

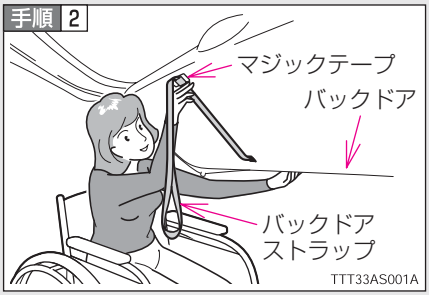
手順 1



バックドアストラップを引き、バックドアに手が届く位置までバックドアを引き寄せる

- バックドアに手が届く位置までバックドアを引き寄せたら、バックドアハンドルに手を添えます。
- バックドアに頭があたらないように、バックドア作動範囲より少し離れた位置から操作してください。

手順 2



片方の手でバックドアハンドルを持ってバックドアを支え、もう片方の手でバックドアストラップのマジックテープを貼り合わせる

手順 3 バックドアを外から押して閉める

バックドアストラップをバックドアで挟み込んでいないことを確認してください。

⚠ 警告

■走行中の警告

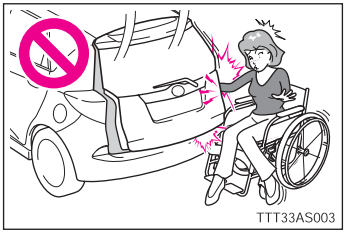
- 走行中はバックドアを閉じてください。
  開けたままにしておくと、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
  バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。
  開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- バックドアの閉め始めは重たいですが、動き始めると軽くなります。
  バックドアで手や頭をぶつけないように注意してください。


TTT33AS003

- バックドアを閉めるときは、手や頭などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。
  バックドアストラップおよびバックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

お手入れのしかた 4

4-1. ウェルキャリーの手入れ
：タイプⅢ、タイプⅣ
ウェルキャリーの清掃.....112

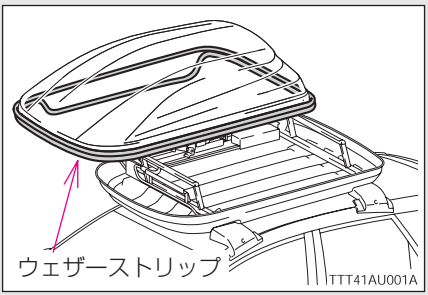
ウェルキャリーの清掃

ウェルキャリーの清掃は、次のように行ってください。なお、清掃しているときは、ウェルキャリーが作動可能状態のため、振出スイッチまたは格納スイッチを押さないでください。

■清掃の前の準備

- 車両右側および上方に十分なスペースがあることを確認してください。（→ P.103）
- ユニット全体を右側にスライドさせます。

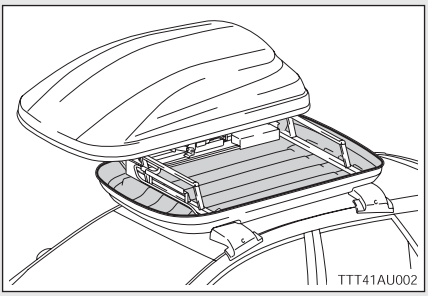
■ウェザーストリップの清掃のしかた



汚れなどは、水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼってからふき取る

清掃するときに、シンナー、ガソリン、ベンジンなどの溶剤を使用しないでください。

■ウェルキャリー内部の枯葉やゴミなどの取り除き



ウェルキャリー内部に枯葉やゴミなどが落ちていたら取り除く

故障の原因になるおそれがあるため、ウェルキャリー内部に枯葉やゴミなどを放置しないでください。

知識

■ウェルキャリーとルーフのすき間について

ウェルキャリーとルーフのすき間は狭いため、洗車時に清掃はできません。

注意

■ウェルキャリーを清掃するときは

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 自動洗車機は、使用しないでください。
  ウェルキャリーが破損するおそれがあります。

お困りのときは 5

5-1. パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キットの
取り出し
：タイプⅡ、タイプⅣ.....116

5-2. 故障かな？とお考えになる前に

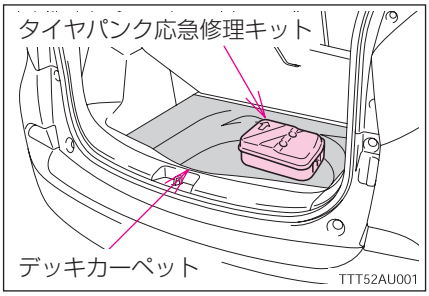
ヒューズの交換.....117
リモコン式専用運転席パワーシート
：タイプⅡ、タイプⅣ.....120
ウェルキャリー
：タイプⅢ、タイプⅣ.....122
ウェルキャリーが振出した状態で
格納できないときは
：タイプⅢ、タイプⅣ.....124
シフトロックが
解除できないときは
：タイプⅢ、タイプⅣ.....131
ワイヤレスリモコン
：タイプⅢ、タイプⅣ.....132

タイヤパンク応急修理キットの取り出し：タイプⅡ、タイプⅣ

ラゲージルーム内、デッキボード下部に装備されます。

- タイプⅢは標準車と同様、運転席シート下部に装備されます。（→標準車取扱書の『パンクしたときは』）
- タイヤパンク応急修理キットの使用方法は標準車と同様ですので、標準車取扱書の『パンクしたときは』を併せて参照してください。

タイヤパンク応急修理キットの搭載状態



デッキカーペットにマジックテープで貼り付けられています。

ヒューズの交換

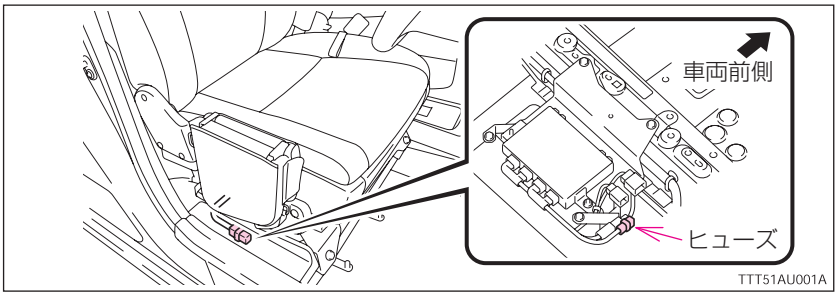
ヒューズを点検する前に、作動条件（→ P.94、100）をすべて満たしていることを確認してください。
作動条件をすべて満たしていてもリモコン式専用運転席パワーシートまたはウェルキャリーが動かないときは、ヒューズ切れが考えられます。

ヒューズが切れたときは、必ず規定容量のヒューズと交換してください。

ヒューズ位置

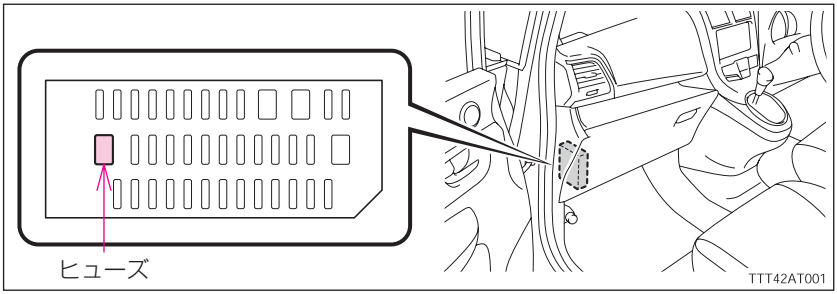
■リモコン式専用運転席パワーシート下部：タイプⅡ、タイプⅣ

ヒューズの点検についてはトヨタ販売店にご相談ください。



アンペア数	使用装置
20A	リモコン式専用運転席パワーシート

■助手席側ヒューズボックス：タイプⅡ、タイプⅣ

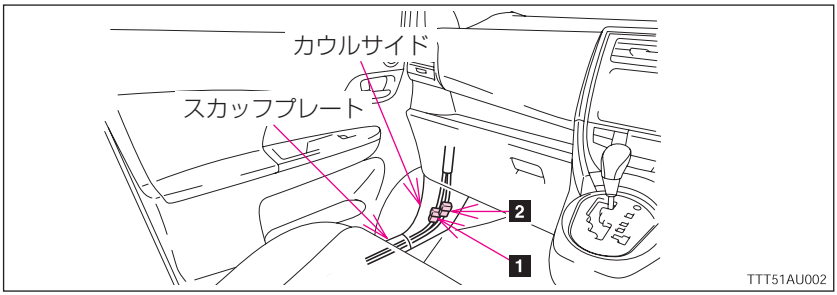


ヒューズ名称	アンペア数	使用装置
ＬＩＦＴ　ＵＰ	30A	リモコン式専用運転席パワーシート

■助手席側カウルサイド部：タイプⅢ、タイプⅣ

スカッフプレートをはずし、カウルサイドをはずします。

ヒューズの点検についてはトヨタ販売店にご相談ください。



アンペア数		使用装置
1	30A	ウェルキャリー
2	10A	ウェルキャリー

知識

■ヒューズを交換したあとは

次の場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 交換しても再びヒューズが切れるとき
- 交換してもリモコン式専用運転席パワーシートまたはウェルキャリーが動かないとき

警告

■車の故障や火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しない
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用する
- ヒューズやヒューズボックスを改造しない

故障かな？とお考えになる前に、次のことを確認してください。

故障かな？とお考えになる前に

症状	原因	処置、参照ページ
リモコン式専用運転席パワーシートが作動しない	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードで、パーキングブレーキが解除されている	パーキングブレーキを確実にかけてから操作してください。（→P.57、79、94）
	専用リモコンの複数のスイッチを同時に押している	専用リモコンを使用するときは、1つのスイッチだけを押してください。（→P.57、79、95）
	連続して何度もリモコン式専用運転席パワーシートを操作した	10分以上待ってから再度操作してください。（→P.58、80、95）
	車両のバッテリーの容量が不足している	車両のバッテリーを充電または交換してください。
	ヒューズが切れている	リモコン式専用運転席パワーシート下部、助手席側ヒューズボックス内のヒューズを点検し、切れている場合は規定容量のヒューズと交換してください。（→P.117、118）

P.120 の状態を確認しても動かない場合は故障であると考えられます。次の処置をして、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

正しい乗車姿勢で運転できる場合：エンジンを始動し、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください。

正しい乗車姿勢で運転できない場合：そのまま運転せず、トヨタ販売店にご連絡ください。やむを得ず運転する必要がある場合は、最小限の車両移動としてください。

故障かな？とお考えになる前に、次のことを確認してください。
●シフトロックが解除できないときは（→P.131）
●ワイヤレスリモコンについてお困りのときは（→P.132）

故障かな？とお考えになる前に

症状	原因	処置、参照ページ
ブザー音が鳴る	−	ブザー音のパターンを確認してください。（→P.102）
ウェルキャリーが少し反転して停止した	障害物にあたるなどして、ウェルキャリーの作動がさまたげられると、安全のためウェルキャリーは少し反転して停止します。	障害物を取り除くなどしたあと、ワイヤードリモコンの格納スイッチまたは振出スイッチを押し続けると、正常な作動にもどります。（→P.66、81、101）
ウェルキャリーが動かない	“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードになっている	“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッションONモード以外にしてから操作してください。（→P.65、80、100）
	パーキングブレーキが解除されている	パーキングブレーキをかけてから操作してください。（→P.65、80、100）
	スイッチを断続的に押している	振出スイッチまたは格納スイッチを押し続けてください。（→P.66、81）
	保護機能が働いている	異常負荷（約40kg以上）の原因を解消したあと、ワイヤードリモコンの振出スイッチを押し続けると、正常な作動にもどります。（→P.100）

症状	原因	処置、参照ページ
ウェルキャリーが動かない	ヒューズが切れている	助手席側カウルサイド部のヒューズを点検し、切れている場合は規定容量のヒューズと交換してください。（→P.118）
	車両のバッテリーの容量が不足している	車両のバッテリーを充電または交換してください。
	ウェルキャリー操作中に車両のバッテリーをはずした	車両のバッテリーの接続状態を確認し、P.125、126の方法でリセット操作をしてください。

P.122、123の状態を確認しても動かない場合は故障であると考えられます。次の処置をして、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ウェルキャリーが完全格納されている状態で動かない場合：そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

ウェルキャリーが完全格納されていない状態で動かない場合：P.124以降の要領でウェルキャリーを完全格納状態にし、そのままトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■車両のバッテリーの取り扱いについて

ウェルキャリー操作中に車両のバッテリーをはずさないでください。ウェルキャリーが作動しなくなります。

●ウェルキャリー操作中に車両のバッテリーの交換またははずしたときは、車両のバッテリーの接続状態を確認し、P.125、126の方法でリセット操作をしてください。

ウェルキャリーが振出した状態で格納できないときは：タイプⅢ、タイプⅣ

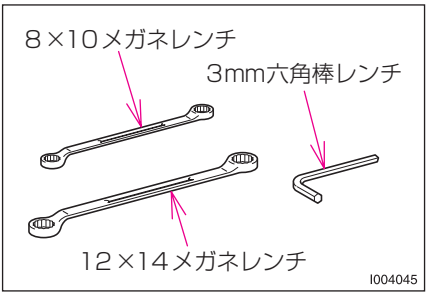
スイッチを押してもウェルキャリーが動かないときは、ヒューズを点検・交換してください。（→P.118）
ヒューズを点検・交換しても動かない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

万一、ウェルキャリーが振出または格納途中で動かなくなってしまったときは、車を走行させることができません。この項目に記載されている要領で完全格納してください。

使用工具について

ウェルキャリーを手動で完全格納状態にもどすときは、次の工具を使用します。

●万一に備えてあらかじめご用意いただく工具

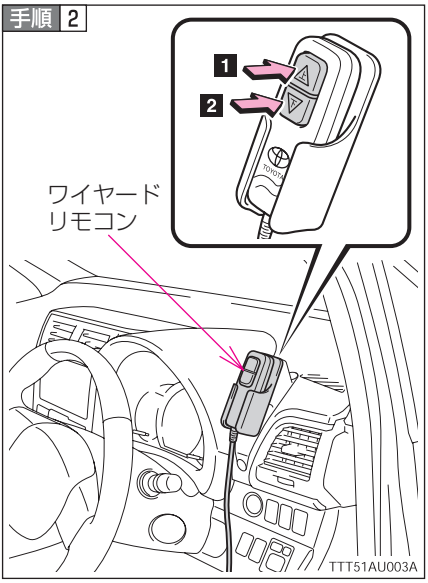


ECU リセット（位置情報の初期化）について

ウェルキャリーが動かなくなったときや正常に動作しないときは、初めにワイヤードリモコンを使用して ECU のリセット（位置情報の初期化）を行い、次ページからの操作を実施してください。なお、これらの操作はワイヤレスリモコンでは行えません。

手順 1 操作前に、必ず“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード以外にし、パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2



ワイヤードリモコンのスイッチを操作してもウェルキャリーが作動しない（作動する場合は、作動しなくなる位置まで作動させた）状態で、格納スイッチまたは振出スイッチを 10 秒間押し続ける（ブザーが鳴る）

1 格納スイッチ

2 振出スイッチ

ブザーが鳴りやんだらスイッチから指を離します。

手順 3 手順 2 のブザーが鳴りやんでから 3 秒以内に、手順 2 で押したスイッチとは逆のスイッチを 10 秒間押し続ける（ブザーが鳴る）

ブザーが鳴りやんだらスイッチから指を離します。

手順 4 位置情報初期化コードを入力する

手順 3 のブザーが鳴りやんでから 10 秒以内（次のブザーが鳴り始めるまで）に次の操作を完了させてください。

1 ワイヤードリモコンの格納スイッチまたは振出スイッチを 4 回押します。

2 1 で押したスイッチとは逆のスイッチを 4 回押します。

手順 5 以上で位置情報の初期化は完了です

次の『スイッチを押すとウェルキャリーが作動するとき』の操作をしてください。

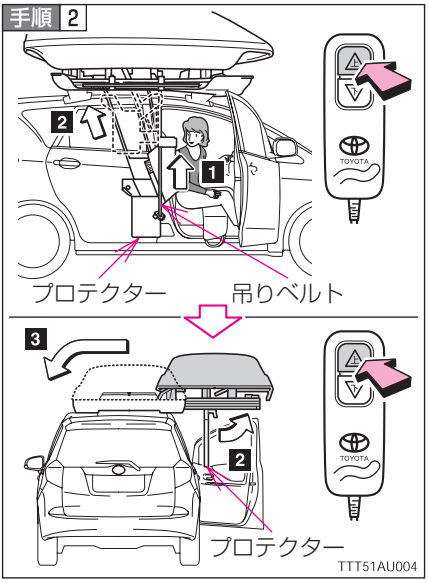
スイッチを押すとウェルキャリーが作動するとき

次の操作で（通常作動とは異なります）ウェルキャリーを格納してください。ウェルキャリーに車いすが搭載されている場合も、搭載されている状態でそのまま操作してください。

- 完全格納している場合は、そのままの状態でトヨタ販売店で点検を受けてください。
- この項目の操作をする前に、必ず P.125 の ECU リセット（位置情報の初期化）を実施してください。

手順 1 ECU リセット（位置情報の初期化）をする（→ P.125）

手順 2



ワイヤードリモコンの格納スイッチを押し続け、ウェルキャリーを完全格納する

1 吊りベルトが上昇する

2 プロテクターが上昇し、回転する

3 ユニット全体がスライドし、ウェルキャリーが完全格納する

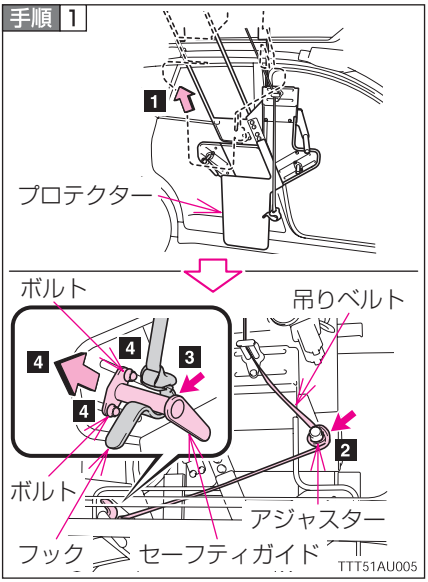
作動が停止し、“ピー”とブザーが鳴るまで格納スイッチを押し続けます。

スイッチを押してもウェルキャリーが作動しないとき

ウェルキャリーを手動格納する前に、必ず P.125 の『ECU リセット（位置情報の初期化）について』および『スイッチを押すとウェルキャリーが作動するとき』の操作を実施してください。

それでもウェルキャリーが完全格納できないときは、次の手順で手動でウェルキャリーを格納します。

- 手動格納作業は、必ず 2 人以上で行ってください。
- ウェルキャリーに車いすが搭載されている場合は、手動格納作業は行わず、トヨタ販売店にご連絡ください。（→ P.11）



1 プロテクターを上がらなくなる位置まで持ち上げる

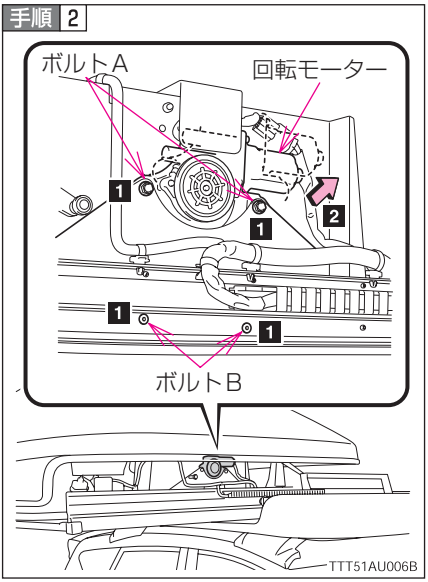
2 吊りベルトをフックがかけられる位置までアジャスターに巻き付ける

3 フックをセーフティガイドに引っかける

4 12 × 14 メガネレンチを使用してボルト 2 本をゆるめ、吊りベルトが張った状態になるまでセーフティガイドをスライドさせる

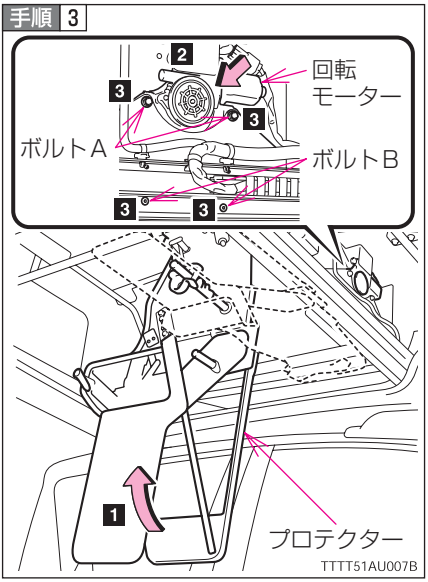
フックがはずれないことを確認します。

5 12 × 14 メガネレンチを使用して **4** でゆるめたボルト 2 本を締め、セーフティガイドを固定する



1 8 × 10 メガネレンチを使用してボルトＡ ２本を取りはずし、六角棒レンチを使用してボルトＢ ２本を取りはずす

2 回転モーターを上方にずらし、ギヤのかみ合いをはずす

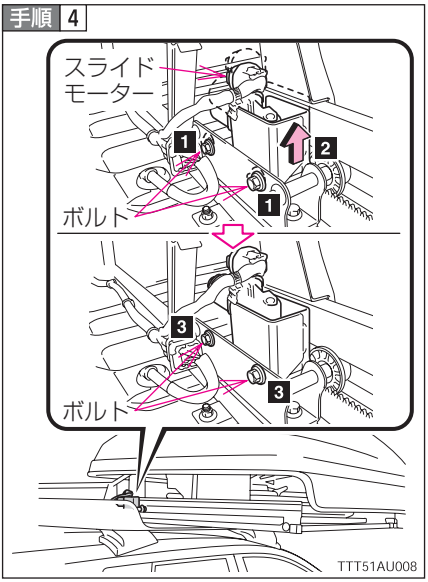


1 プロテクターをまわらなくなる位置まで回転させる

2 **1** の状態でギヤをかみ合わせ、回転モーターを取り付ける

3 8 × 10 メガネレンチを使用してボルトＡ ２本を取り付け、六角棒レンチを使用してボルトＢ ２本を取り付ける

手順 4

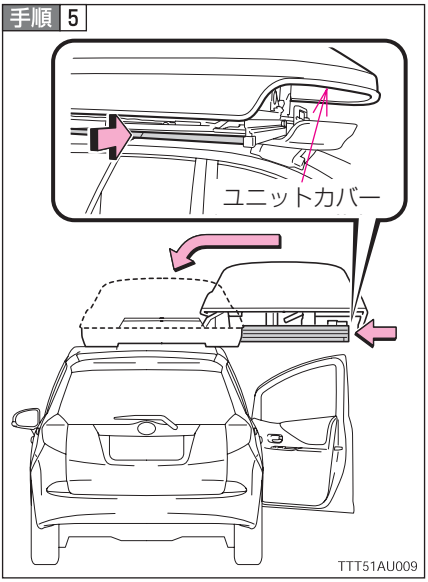


1 12 × 14 メガネレンチを使用してスライドモーターのボルト 2 本をゆるめる

2 スライドモーターを上方にずらし、ギヤのかみ合いをはずす

3 2 の状態で 12 × 14 メガネレンチを使用してスライドモーターのボルト 2 本を締める

手順 5



ユニット全体を手動で格納方向にゆっくりスライドさせ、ロックさせる

- スライド時、ユニットカバーに手を挟まれないようにします。
- 完全格納後、振出方向に引いてみて、確実にロックされていることを確認します。

手順 6 ウェルキャリーのヒューズ（10A）を取りはずす（→ P.118）

ウェルキャリーが完全格納後に、ブザーが鳴る可能性があるため、ヒューズを取りはずします。

知識

■ウェルキャリーが完全格納されたにもかかわらず、シフトロックが解除されないときは

シフトロックシステムなどの故障が考えられます。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P.131）

⚠ 警告

■ウェルキャリーを手動で格納するときは

- 必ず 2 人以上で作業を行ってください。
- 必ず車いすが搭載されていない状態で作業を行ってください。
  車いすが搭載されていると、格納作業中に車いすが落下しけがをするおそれがあります。
  また、完全格納後に車いすの固定不足のため、ウェルキャリー内で車いすが動き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ウェルキャリー格納スペースに手や頭を入れないでください。
  ウェルキャリー可動部などで手や頭などを挟み重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 工具を使用したあとは、グローブボックスなどの所定の場所に確実に収納してください。
  車室内などに放置すると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、工具が飛んできて乗員にあたるなど、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ウェルキャリーを手動格納作業で完全格納できなかったときは

シフトロックを解除して車両の運転をしないでください。
確実に格納されていないと、車両の運転中にウェルキャリーが振出方向にスライドし、重大な事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■紛失を防ぐために

取りはずした部品は袋に入れるなどして、紛失しないようにしてください。

シフトロックが解除できないときは：タイプⅢ、タイプⅣ

故障かな？とお考えになる前に、次のことを確認してください。

故障かな？とお考えになる前に

症状	原因	処置、参照ページ
シフトレバーがPの位置から動かせない（シフトロックが解除されない）	ウェルキャリーが完全格納されていない	ワイヤードリモコンの格納スイッチを“ピピッ”というブザーが鳴るまで押し続け、ウェルキャリーを完全格納してください。（“ピピッ”というブザーが鳴れば完全格納状態） （→P.66、81、100）

次の場合は、シフトロックを解除し、そのまま運転してトヨタ販売店で点検を受けてください：ウェルキャリーが完全格納されたとき

シフトロックの解除については、標準車取扱書の『シフトレバーがシフトできないときは』を確認してください。

次の場合は、シフトロックが解除できても運転せず、トヨタ販売店にご連絡ください：ウェルキャリーが完全格納できなかったとき

⚠ 警告

■シフトロックが解除できたときは

ウェルキャリーが完全格納していない場合は、そのまま運転しないでください。
思わぬ事故の原因になって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ワイヤレスリモコン：タイプⅢ、タイプⅣ

故障かな？とお考えになる前に、次のことを確認してください。

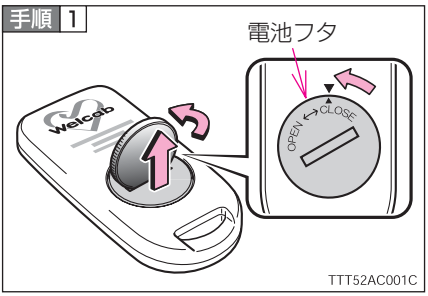
故障かな？とお考えになる前に

症状	原因	処置、参照ページ
ウェルキャリーが動かない（車外から操作した場合）	車両から離れすぎている	車両に近付いて操作してください。（作動可能範囲はウェルキャリーから約1mです）（→P.39）
	周囲の電波状況により、ワイヤレスリモコンの振出スイッチまたは格納スイッチを押しても、ウェルキャリーが作動しなくなることがあります	・位置をかえ、ワイヤレスリモコンのスイッチを押し直す（→P.40） ・ワイヤードリモコンで操作する（→P.36）
・スイッチを押してもウェルキャリーが作動しない ・著しく作動可能距離が短くなる ・動作表示LEDが点灯・点滅しなくなる	電池切れの可能性があります	電池を交換してください。（→P.133）
ウェルキャリーが動かない	電源スイッチを押してから6秒以内（動作表示LEDが赤色点灯中）に、振出スイッチまたは格納スイッチを押していない、または断続的にスイッチを押した	6秒以内に振出スイッチまたは格納スイッチを押す ・6秒以内に押さないと自動的に電源が切れます。（→P.40） ・断続的にスイッチを押してもウェルキャリーは作動しません。（→P.40）

P.132 の状態を確認しても動かない場合は故障であると考えられます。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。修理が完了するまでは、ワイヤードリモコン（→ P.36）で操作してください。

ワイヤレスリモコンの電池交換

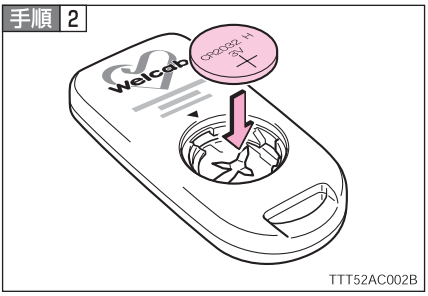
手順 1



電池フタをはずす

コインなどを電池フタの溝に挿し込み、▲マークが合う位置まで OPEN 側にまわし、電池フタをはずします。

手順 2

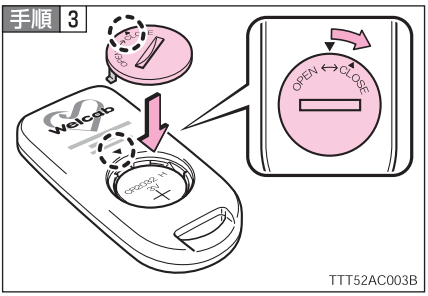


電池を交換する

電池を取り出し、新しい電池の＋側を上（電池フタ側）にして挿入します。

使用電池..... リチウム電池 CR2032

手順 3



電池フタをはめる

- 電池フタと送信機の▲マークを合わせてはめます。
- コインなどを電池フタの溝に挿し込み、CLOSE 側にまわし、電池フタを締め込みます。

手順 4 作動確認をする

電源スイッチを押し、動作表示 LED が赤色点灯中（6 秒以内）に振出スイッチまたは格納スイッチを押して、動作表示 LED が緑色点滅することを確認します。

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店、時計店、カメラ店などで購入できます。

⚠警告

■取りはずした部品や電池について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことをお守りください。

- 電池交換時に部品を紛失しない
- 電池フタを曲げたりしない
- 電池以外の部品にふれたり、動かしたりしない
- 電池の＋極と－極は必ず正しい向きにして挿入する
- 電池挿入部の電極を曲げたり、ゴミや油などを付着させない

点検・整備項目 6

6-1. 点検・整備項目
：タイプⅢ、タイプⅣ
定期点検整備 136

定期点検整備

故障を減らして長く大切に使うために、定期点検整備をお願いします。点検結果を記録する際には、巻末の記録簿を A4 サイズにコピーして使用してください。

点検整備項目		点検時期			交換時期(年)	備考
		日常点検	自家用車			
			12か月ごと	24か月ごと		
ウェルキャリー	吊りベルト、車いす吊上げバンドのきず、ほつれ	○	○			きず、ほつれが始まったら交換
	フックCリングのはずれ	○	○			Cリングが変形したら交換
	スライドレールの摩耗、変形		○			
	ウェザーストリップのきず、変形、はずれ		○			ウェザーストリップが切れたら交換
	ローラー（メイン４個、サブ2個）の割れ、異常		○			ローラーが割れたら交換
	夜間照明灯の電球切れ	○	○			電球が切れたら交換
	クッションゴム（スライド原点、回転原点、プロテクター下端）の摩耗		○			
	水抜き穴のつまり		○			水抜き穴がつまったら清掃
	ウェルキャリー取付部		○			ゆるみ、ガタがないこと
車いす	車いす本体のネジのゆるみ※1		○			車いす購入先で点検を受けてください

※1：車両の振動によって格納した車いすのネジがゆるむおそれがあります。定期的に車いすの点検を行ってください。

※2：空欄については点検および交換の必要はありません。

消耗部品

次の部品は使用頻度・経年変化などにより、消耗・劣化する部品です。
点検時に摩耗や損傷状態を見て早めに交換してください。
●交換作業はトヨタ販売店にお申し付けください。

消耗部品
吊りベルト、車いす吊上げバンド、Cリング、ウェザーストリップ、 ローラー（メイン4個、サブ2個）、夜間照明灯の電球（12V/5W）

さくいん

五十音順さくいん..... 140

五十音順さくいん

あ

安全ドライブのために
- 車内外への乗降・車いすの格納について……16
- 車両のバッテリーについて：タイプⅢ、タイプⅣ……20

い

ECU リセット（位置情報の初期化）について……125

移乗ボード……51 ～ 56、74 ～ 77

一般的な使用上の注意
- ウェルキャリーについて：タイプⅢ、タイプⅣ……10
- 運転席側のフロントドアポケットについて：タイプⅡ、タイプⅣ……10
- 車いすから運転席シートへの移乗について……10
- 不測の事態に備えて……11
- リモコン式専用運転席パワーシートについて：タイプⅡ、タイプⅣ……10

う

ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ
- ウェルキャリーについて……100
- 故障かな？とお考えになる前に……122
- 作動条件について……100
- 作動について……101
- 作動のしかた……99
- スイッチを押しても ウェルキャリーが作動しないとき……127
- スイッチを押すと ウェルキャリーが作動するとき……126
- 清掃……112
- 搭載可能な車いすの目安……101
- ブザー音について……102
- 振出した状態で格納できないときは……124
- 保護機能について……100
- 夜間照明灯……99

ウェルキャリーが動かなくなったときは：タイプⅢ、タイプⅣ
- 作動条件の確認……13
- 作動条件をすべて満たしているにもかかわらずウェルキャリーが動かなくなった場合……13
- 不測の事態に備えて……11

運転する前に／運転するときに
- ウェルキャリー：タイプⅢ、タイプⅣ……99
- 運転にあたって……107
- 助手席前倒し機構＆操作ストラップ：タイプⅡ……92
- バックドアの開閉……108
- リモコン式専用運転席パワーシート：タイプⅡ、タイプⅣ……93

お
お困りのときは
故障かな？と
お考えになる前に 117
パンクしたときは 116
お手入れのしかた
ウェルキャリーの手入れ
：タイプⅢ、タイプⅣ 112

く
車いす固定用ストラップ
：タイプⅡ、タイプⅣ
..... 49、52～54、72、75、76
車いす吊上げバンド
：タイプⅢ、タイプⅣ 106
車いすの目安 43

こ
故障かな？とお考えになる前に
ウェルキャリー
：タイプⅢ、タイプⅣ 122
ウェルキャリーが振出した状態で
格納できないときは
：タイプⅢ、タイプⅣ 124
シフトロックが
解除できないときは
：タイプⅢ、タイプⅣ 131
ヒューズの交換 117
リモコン式専用運転席
パワーシート
：タイプⅡ、タイプⅣ 120
ワイヤレスリモコン
：タイプⅢ、タイプⅣ 132

さ
作動条件
ウェルキャリー
：タイプⅢ、タイプⅣ 100
リモコン式専用運転席
パワーシート
：タイプⅡ、タイプⅣ 94

し
シフトロックが解除できないときは
：タイプⅢ、タイプⅣ 131
車内外に乗降するときは
車いすの目安 43
車内外への乗降および車いすの格納
：タイプⅢ
車いすを車外に出すときおよび
車外に降車するときは 65
車内に乗車および車いすを
格納するときは 63
車内外への乗り降り 21
車両のバッテリーについて
：タイプⅢ、タイプⅣ 20
乗降操作の流れ
車内外に乗降する前に 22
車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅢ 26
リモコン式専用運転席パワー
シートでの車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅡ 23
リモコン式専用運転席パワー
シートでの車内外への乗降および
車いすの格納：タイプⅣ 28
助手席前倒し機構 & 操作ストラップ
：タイプⅡ
前倒しのしかた 92

せ
専用パワーステアリング 107
専用リモコン：タイプⅡ、タイプⅣ
..... 31～35、93

た
タイプ別主要装備一覧表.....4
タイヤパンク応急修理キットの
取り出し
：タイプⅡ、タイプⅣ.....116

て
点検・整備項目：タイプⅢ、タイプⅣ
消耗部品.....137
定期点検整備.....136
電動車いすをご使用の方へ
：タイプⅢ、タイプⅣ.....48

と
搭載可能な車いすの目安
：タイプⅢ、タイプⅣ.....101

な
中折れ式シートバック
：タイプⅡ、タイプⅣ.....94

は
バックドアストラップ.....108
パンクしたときは
タイヤパンク応急修理キットの
取り出し
：タイプⅡ、タイプⅣ.....116

ひ
ヒューズ
助手席側カウルサイド部
：タイプⅢ、タイプⅣ.....118
助手席側ヒューズボックス
：タイプⅡ、タイプⅣ.....118
ヒューズ位置.....117
リモコン式専用運転席
パワーシート下部
：タイプⅡ、タイプⅣ.....117

ふ
ブザー音について
：タイプⅢ、タイプⅣ.....102
不測の事態に備えて.....11

へ
ヘッドレスト
：タイプⅡ、タイプⅣ.....98

ほ
保護機能
：タイプⅢ、タイプⅣ.....100

や
夜間照明灯
：タイプⅢ、タイプⅣ.....99

り

リモコン式専用運転席パワーシート
：タイプⅡ、タイプⅣ
移乗ボード..51 ～ 56、74 ～ 77
クッション前端の高さ調整.....93
故障かな？と
お考えになる前に 120
シート全体の昇降 93
シートバック中折れ用
ストラップ.....94
前後位置調整.....93
専用リモコン.....31 ～ 35、93
調整のしかた.....93
中折れ式シートバック 94
ヘッドレスト.....98
リクライニング調整 93
リモコン式専用運転席パワーシートが
動かなくなったときは
：タイプⅡ、タイプⅣ
作動条件の確認.....12
作動条件をすべて満たしている
にもかかわらずリモコン式
専用運転席パワーシートが
動かなくなった場合.....12
不測の事態に備えて 11
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への乗降
および車いすの格納：タイプⅡ
車いすを車外に出すときおよび
車外に降車するときは.....57
車内に乗車および車いすを
格納するときは 49
リモコン式専用運転席
パワーシートでの車内外への乗降
および車いすの格納：タイプⅣ
車いすを車外に出すときおよび
車外に降車するときは.....79
車内に乗車および車いすを
格納するときは 72

わ

ワイヤードリモコン
：タイプⅢ、タイプⅣ
各部の名称.....36
作動条件について 37
リモコンホルダー 36
ワイヤレスリモコン
：タイプⅢ、タイプⅣ
各部の名称.....39
故障かな？と
お考えになる前に 132
作動可能範囲.....39
作動条件について 40
使い方 39
電池交換.....133

12か月定期点検整備記録簿

分解整備記録簿

該当なし	／	異常なし	レ	交換	X	締付	T	清掃	C
調整	A	修理	△	分解	○	給油	L	省略	P

点検の結果および(分解)整備の概要

■ウェルキャリー点検

- ☐ 吊りベルト、車いす吊上げバンドのきず、ほつれ
- ☐ フックCリングのはずれ
- ☐ スライドレールの摩耗、変形
- ☐ ウェザーストリップのきず、変形、はずれ
- ☐ ローラー（メイン4個、サブ2個）の割れ、異常
- ☐ 夜間照明灯の電球切れ
- ☐ クッションゴム（スライド原点、回転原点、プロテクター下端）の摩耗
- ☐ 水抜き穴のつまり
- ☐ ウェルキャリー取付部

■車いす点検

- ☐ 車いす本体のネジのゆるみ

■その他必要となった点検整備の内容および主な交換部品

TECS 型式			
架装物名	ウェルキャブ（フレンドマチック取付用専用車タイプⅡ／タイプⅢ／タイプⅣ）		
ボデーNo.			
お客様の業種・積載物		架装メーカー名	トヨタ車体(株)

依頼者の氏名又は名称及び住所	
氏名又は名称 住所	

メンテナンスに関するアドバイス	

型式	初年度登録または初年度検査年

自動車登録番号又は車両番号（左記の無い車両にあっては、車台番号）

自動車分解整備事業者の氏名又は名称及び事業場の所在地	
氏名又は名称 事業場の所在地	

認証又は指定番号	点検の年月日
	年　月　日
分解整備（点検）時の総走行距離	整備を完了した年月日
km	年　月　日
整備主任者の氏名	

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450 - 0002　**名古屋市中村区名駅四丁目10の27**
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

トヨタ ウェルキャブシリーズ

TOYOTA

1854703
IT-2010年11月15日
2010年11月22日 初版
適用車種［ラクティス］
フレンドマチック取付用専用車タイプⅡ／タイプⅢ／タイプⅣ